

## 北陸新幹線関係

### 埋蔵文化財包蔵地調査報告(10)

上梅沢遺跡	今開発遺跡
水橋上砂子坂遺跡	水上・本開発(水上)遺跡
小竹貝塚	HS-03(赤井南)遺跡
HS-04東遺跡	赤井南遺跡
HS-04(愛宕)遺跡	安吉遺跡
愛宕遺跡	本江畑田I遺跡
今開発東遺跡	HS-02(下黒田)遺跡

2010年3月

財団法人富山県文化振興財団  
埋蔵文化財調査事務所



# 序

北陸新幹線は、日本海沿いに上越・北陸地方を経由して東京と大阪を結ぶ路線として建設が進められています。現在、長野・金沢間の建設工事が着工されており、平成26（2014）年度末の開業が予定されています。

当事務所では、北陸新幹線建設計画に伴い、平成8年度から独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構の委託を受け、計画路線内の埋蔵文化財包蔵地について、その範囲等の確認調査を実施しています。本年度は、滑川市、富山市、射水市、高岡市の4市14箇所で、包蔵地確認調査を実施しました。

本書は、滑川市上梅沢遺跡、富山市水橋上砂子坂遺跡、小竹貝塚、射水市HS-04東遺跡、HS-04（愛宕）遺跡、愛宕遺跡、今開発東遺跡、今開発遺跡、水上・本開発（水上）遺跡、HS-03（赤井南）遺跡、赤井南遺跡、安吉遺跡、本江畑田Ⅰ遺跡、高岡市HS-02（下黒田）遺跡の調査結果をまとめたものです。

この確認調査の成果が、私たちの共有の財産である埋蔵文化財を理解していく上で参考になれば幸いです。

最後に、今回の調査にあたり格別のご協力とご配慮をいただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

平成22年3月

財団法人富山県文化振興財団  
埋蔵文化財調査事務所  
所長 岸本雅敏

# 例　言

1 本書は平成21年度に滑川市上梅沢遺跡、富山市水橋上砂子坂遺跡、小竹貝塚、射水市HS-04東遺跡、HS-04遺跡、愛宕遺跡、今開発東遺跡、今開発遺跡、水上・本開発遺跡、HS-03遺跡、赤井南遺跡、安吉遺跡、本江畑田Ⅰ遺跡、高岡市HS-02遺跡で実施した埋蔵文化財包蔵地の確認調査報告書である。

2 調査は富山県教育委員会の決定に基づき、財団法人富山県文化振興財団が独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構からの委託を受けて実施した。

3 調査は財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が実施した。調査員は次のとおりである。

副所長 池野正男

調査第二課 課長 河西健二 同主任 伊藤 潔・金三津道子・町田賢一

同埋蔵文化財技師 泉 英樹・松永篤知

調査第一課 主任 青山 晃・細辻真澄

4 本書の編集・執筆は、金三津、青山、町田、松永が担当した。

5 遺物写真の撮影は、調査第一課 課長補佐心得 島田美佐子が行った。

6 出土遺物及び記録資料は、埋蔵文化財調査事務所が一括して保管している。

# 目　次

序	7 射水市今開発東遺跡	17
例言	8 射水市今開発遺跡	19
目次	9 射水市水上・本開発遺跡	21
I 位置と環境	10 射水市HS-03遺跡	23
II 調査の経緯	11 射水市赤井南遺跡	25
III 調査の概要	12 射水市安吉遺跡	27
1 滑川市上梅沢遺跡	13 射水市本江畑田Ⅰ遺跡	28
2 富山市水橋上砂子坂遺跡	14 高岡市HS-02遺跡	29
3 富山市小竹貝塚	IV まとめ	31
4 射水市HS-04東遺跡	参考文献	32
5 射水市HS-04遺跡	写真	
6 射水市愛宕遺跡	報告書抄録	

# I 位置と環境

本年度に実施した包蔵地確認調査は、滑川市所在の上梅沢遺跡、富山市所在の水橋上砂子坂遺跡、  
小竹貝塚、射水市所在のHS-04東遺跡、HS-04遺跡、愛宕遺跡、今開発東遺跡、今開発遺跡、  
水上・本開発遺跡、HS-03遺跡、赤井南遺跡、安吉遺跡、本江畑田Ⅰ遺跡、高岡市所在のHS-02  
遺跡の4市14箇所である。

滑川市上梅沢遺跡は、早月川左岸の早月川扇状地上に位置し、周辺には、上梅沢館跡、有金館跡などの中世城館がある。

富山市水橋上砂子坂遺跡は、富山市水橋上砂子坂から上市町にかけて所在し、常願寺川の下流部に形成された扇状地扇端部の白岩川と上市川に挟まれた湧水地帯に立地する。周辺には、  
水橋金広・中馬場遺跡（弥生～古代・中世）、若王子塚古墳（古墳・中世）、宮塚古墳（古墳）、田伏・佐野竹遺跡（縄文～近世）など多くの遺跡がある。小竹貝塚は、呉羽山丘陵から弧状に張り出した緩傾斜面のほぼ先端部に位置し、周辺には、呉羽富田町遺跡（縄文・古代）、覗ヶ森貝塚（縄文）、北代遺跡（縄文）などがある。

射水市HS-04東遺跡は、新堀川右岸に位置し、南側は富山市と接している。HS-04遺跡は小杉白石・鷺塚・大江・戸破地内にかけて所在し、下条川右岸に位置する。愛宕遺跡、今開発東遺跡、今開発遺跡は、下条川左岸に位置し、高寺から今開発にかけて連続して所在する。周辺には、戸破若宮遺跡（弥生・中世）、鷺塚遺跡（古墳）、針原東遺跡（弥生・中世）などがある。水上・本開発遺跡、HS-03遺跡、赤井南遺跡、安吉遺跡は北陸本線以南の新開発・赤井地内に所在し、射水平野西端部に位置する。周辺には、赤井遺跡（古代・中世）、本田天水遺跡（古代）、本田宮田遺跡（弥生・古墳・中世・近世）、二口遺跡（縄文）などがあり、遺跡範囲が複雑に入りこんでいる。本江畑田Ⅰ遺跡は、大門本江・中村地内に所在し、和田川右岸に位置する。周辺には、本江大坪Ⅰ遺跡（古代・中世）、本江畑田Ⅱ遺跡（弥生～近世）、二口油免遺跡（弥生～中世）などがある。

高岡市HS-02遺跡は、下黒田地内に所在し、砺波平野北部の庄川左岸に位置する。周辺には、上黒田遺跡（古墳・古代・中世）、井口本江遺跡（縄文～近世）、出来田南遺跡（古代）、高岡問屋センター遺跡（縄文・古代）などがある。



第1図 調査位置図 (1:300,000)

## II 調査の経緯

北陸新幹線は、昭和48（1973）年に整備計画が決定し、全国新幹線鉄道整備法のもと建設工事が進められている。平成13（2001）年には上越・富山間が、平成17（2005）年には富山・金沢間の建設工事が、各々フル規格で着工し、平成26（2014）年度までの完成が予定されている。

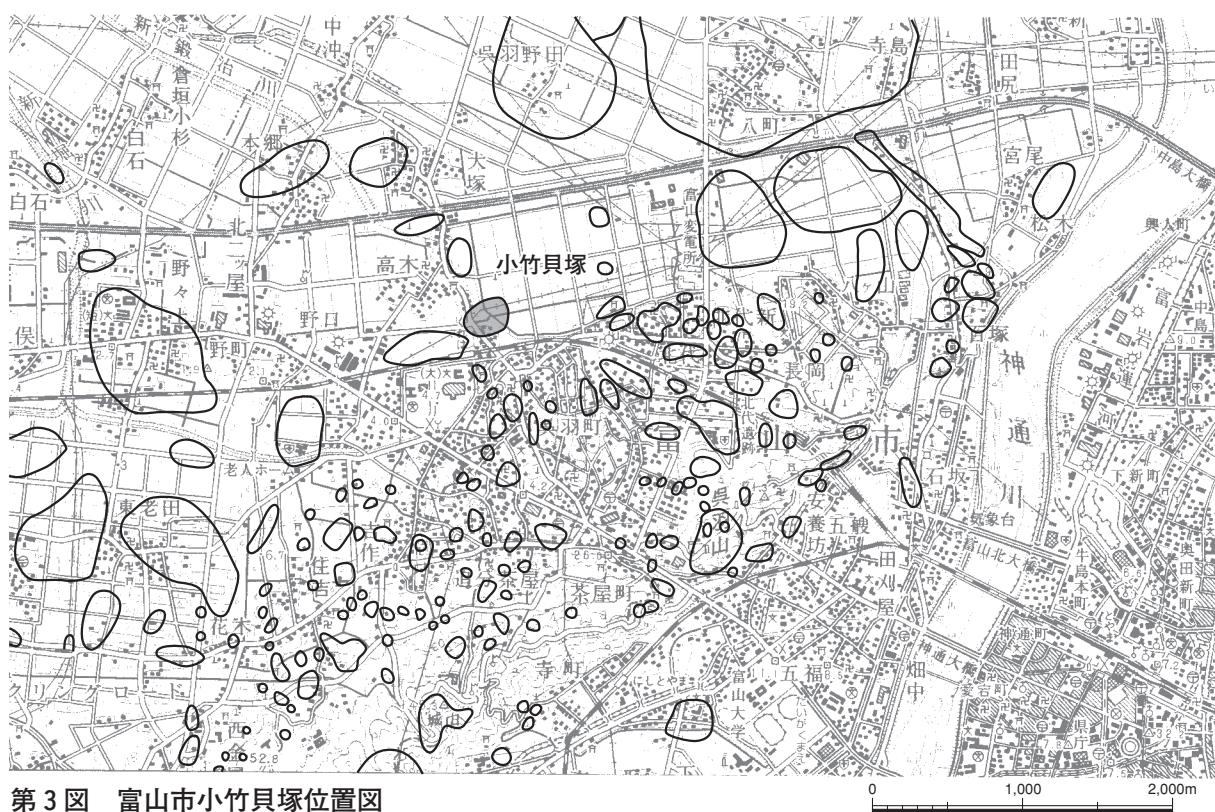
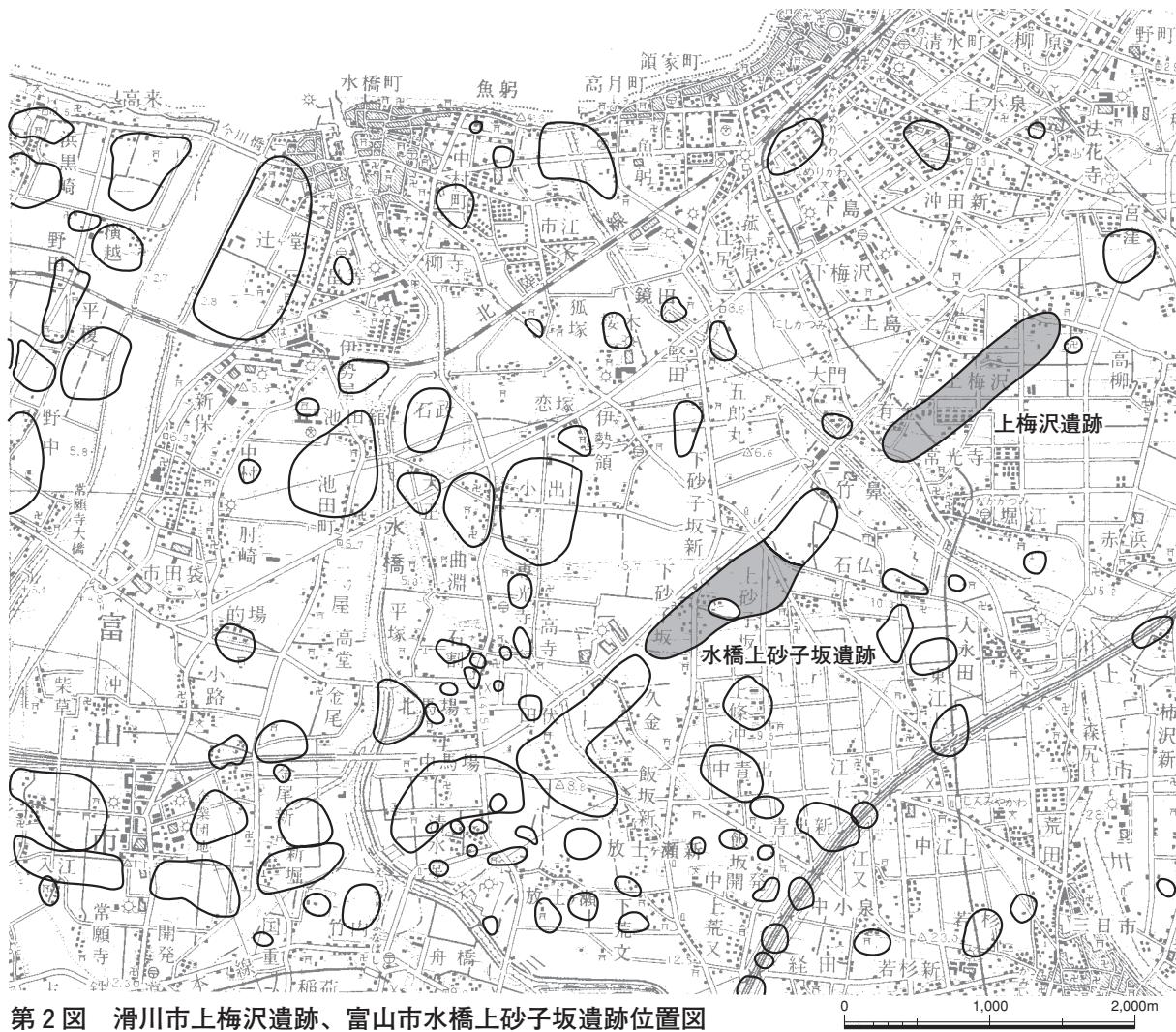
北陸新幹線の富山県内におけるルートの概要は、昭和60（1985）年に日本鉄道建設公団（現独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、以下、鉄道・運輸機構）から富山県教育委員会（以下、県教委）に示され、路線予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについての協議が行われた。その結果、昭和60年、県教委及び富山県埋蔵文化財センターにより路線敷全長63.9kmのうち約38kmについて分布調査が行われ、周知の包蔵地を含め、県東部で16箇所、県西部で11箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認された。次いで、平成7（1995）年、平成14（2002）年に未調査部分について分布調査が実施され、周知の包蔵地を含め10箇所が追加確認された。また、県西部においては、平成18（2006）年の分布調査で6箇所の包蔵地が新たに確認され、4箇所で包蔵地の範囲が拡大した。

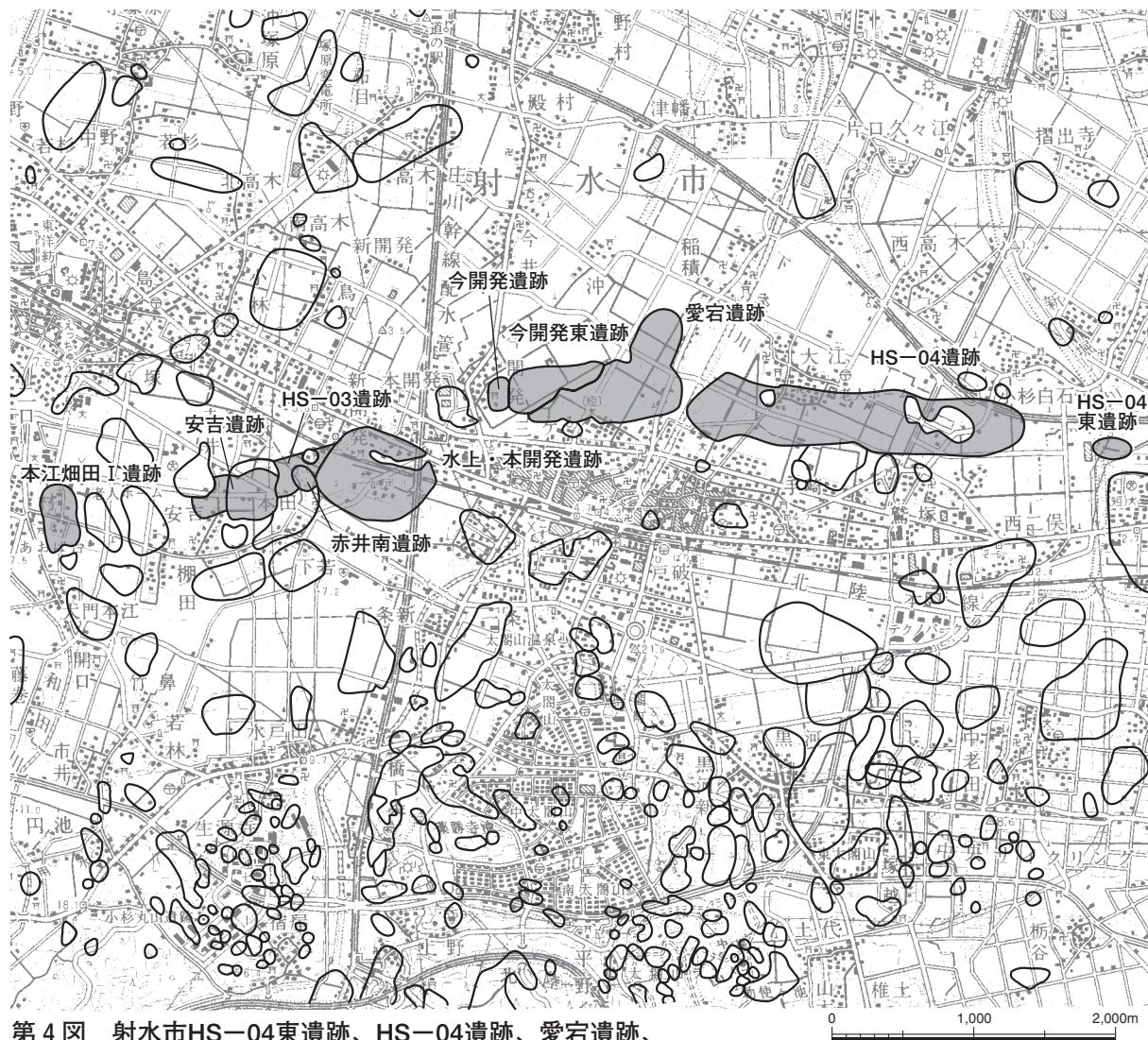
路線予定地内の埋蔵文化財包蔵地の確認調査については、鉄道・運輸機構と県教委との協議の結果、財団法人富山県文化振興財団に依頼することとなった。平成8（1996）年、鉄道・運輸機構の委託を受け、当財団で小矢部市下川原遺跡で確認調査を実施した。平成11（1999）年以降は、県東部から包蔵地確認調査を順次実施している。これらの確認調査の結果を受け、鉄道・運輸機構から範囲の確定している包蔵地について本調査の要望が出され、協議の結果、平成13（2001）年度から当財団が北陸新幹線関係の本調査を受託することとなった。平成13（2001）年度に新黒部・富山間の工事認可が下りるとともに、工事の急がれる新黒部駅以東の竹ノ内Ⅱ遺跡、柳田遺跡、下山新遺跡の本調査を実施している。以後、東から順次本調査を実施している。また、県西部においては、平成18（2006）年に下川原遺跡で本調査を実施して以後、西から順次本調査を実施している。

本年度は、東から滑川市上梅沢遺跡、富山市水橋上砂子坂遺跡、小竹貝塚、射水市HS-04東遺跡、HS-04遺跡、愛宕遺跡、今開発東遺跡、今開発遺跡、水上・本開発遺跡、HS-03遺跡、赤井南遺跡、安吉遺跡、本江畑田Ⅰ遺跡、高岡市HS-02遺跡を対象に包蔵地確認調査を実施した。

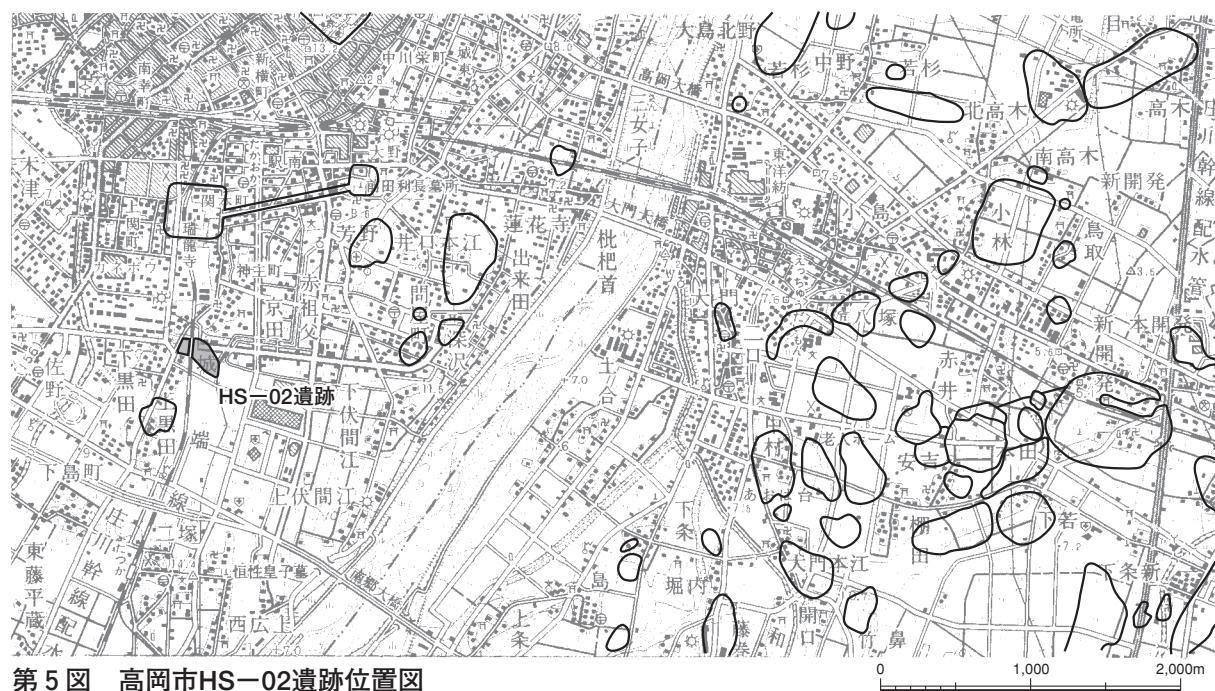
	調査地名	調査期間(実働日数)	対象面積	掘削面積	遺跡の有無
滑川市	上梅沢遺跡	H21.4.15（1日）	1,710m <sup>2</sup>	97m <sup>2</sup>	有（古墳～古代）
富山市	水橋上砂子坂遺跡	1期 H21.10.13（1日）	2,850m <sup>2</sup>	42m <sup>2</sup>	無
		2期 H21.12.22（1日）		19m <sup>2</sup>	無
		3期 H22.1.19（1日）		23m <sup>2</sup>	無
		4期 H22.2.3（1日）		35m <sup>2</sup>	無
	小竹貝塚	1期 H21.5.19・20（2日）		82m <sup>2</sup>	有（縄文貝層）
		2期 H21.10.3・24（2日）		24m <sup>2</sup>	無
射水市	HS-04東遺跡	H21.7.21（1日）	3,000m <sup>2</sup>	75m <sup>2</sup>	無
	HS-04遺跡	H21.11.24～26（3日）	9,422m <sup>2</sup>	342m <sup>2</sup>	有（中世）
		H21.12.3（1日）			
	愛宕遺跡	1期 H21.7.22（1日）	3,700m <sup>2</sup>	45m <sup>2</sup>	有（古墳）
		2期 H21.11.24（1日）		97m <sup>2</sup>	有（中世）
	今開発東遺跡	H21.7.23～27（3日）	6,300m <sup>2</sup>	195m <sup>2</sup>	有（中世）
	今開発遺跡	H21.7.22～23（2日）	3,600m <sup>2</sup>	105m <sup>2</sup>	有（中世）
	水上・本開発遺跡	H21.6.8～11（3日）	3,780m <sup>2</sup>	117m <sup>2</sup>	有（古代～中世）
	HS-03遺跡	H21.6.8～11（3日）	3,600m <sup>2</sup>	164m <sup>2</sup>	有（古代～中世）
	赤井南遺跡	H21.6.8～11（3日）	2,300m <sup>2</sup>	116m <sup>2</sup>	有（古代～中世）
高岡市	安吉遺跡	H21.7.28（1日）	1,380m <sup>2</sup>	30m <sup>2</sup>	無
	本江畑田Ⅰ遺跡	H21.8.31～9.1（2日）	5,400m <sup>2</sup>	64m <sup>2</sup>	無
	HS-02遺跡	H21.5.18・19（2日）	2,600m <sup>2</sup>	180m <sup>2</sup>	有（弥生）

第1表 調査結果一覧





第4図 射水市HS-04東遺跡、HS-04遺跡、愛宕遺跡、  
今開発東遺跡、今開発遺跡、水上・本開発遺跡、HS-03遺跡、  
赤井南遺跡、安吉遺跡、本江畑田 I 遺跡位置図



第5図 高岡市HS-02遺跡位置図

### III 調査の概要

#### 1. 滑川市上梅沢遺跡

##### 調査対象地

上梅沢遺跡は、滑川市西方の富山平野東部に位置する東西約1.5kmに及ぶ細長い遺跡である。遺跡の立地は、上市川と早月川にはさまれた早月川左岸扇状地で、標高14.8～15.9m（現況）を測る。土地分類図では、扇状地性低地・粗粒グライ土壤に分類される。遺跡周辺は、古代～中世においては祇園社堀江莊内に所在する。

遺跡の発掘調査は1995・1996・1998・1999・2007年に個人住宅造成関係（県埋文センター1996・1997・2001・2007、滑川市教委1999）、2000・2001年に農道工事関係（県埋文センター2002）で滑川市教育委員会が試掘調査を実施し、古代～近世の遺物が出土している。

北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査は、これまでに2006年と2008年の2度行われている。2006年の調査は、遺跡の中央～西側を対象（T 1～20）としたが遺構・遺物はなく、本調査は不要と判断された（財団2007）。2008年の調査は、遺跡の東端を対象とし（T 21～23）、その東側のT 21で中世～近世の溝、T 22で古墳時代の溝を確認（財団2009a）し、T 21付近の348m<sup>2</sup>については同年A地区として本調査を実施している（財団2009b）。

今回の確認調査対象範囲は遺跡の東側で2006・2008年調査対象地の間にあたる。トレンチは、調査対象地内に2008年の確認調査の続き番号でT 24～27までの4本を東から西に設定し調査を行った。

##### 基本層序

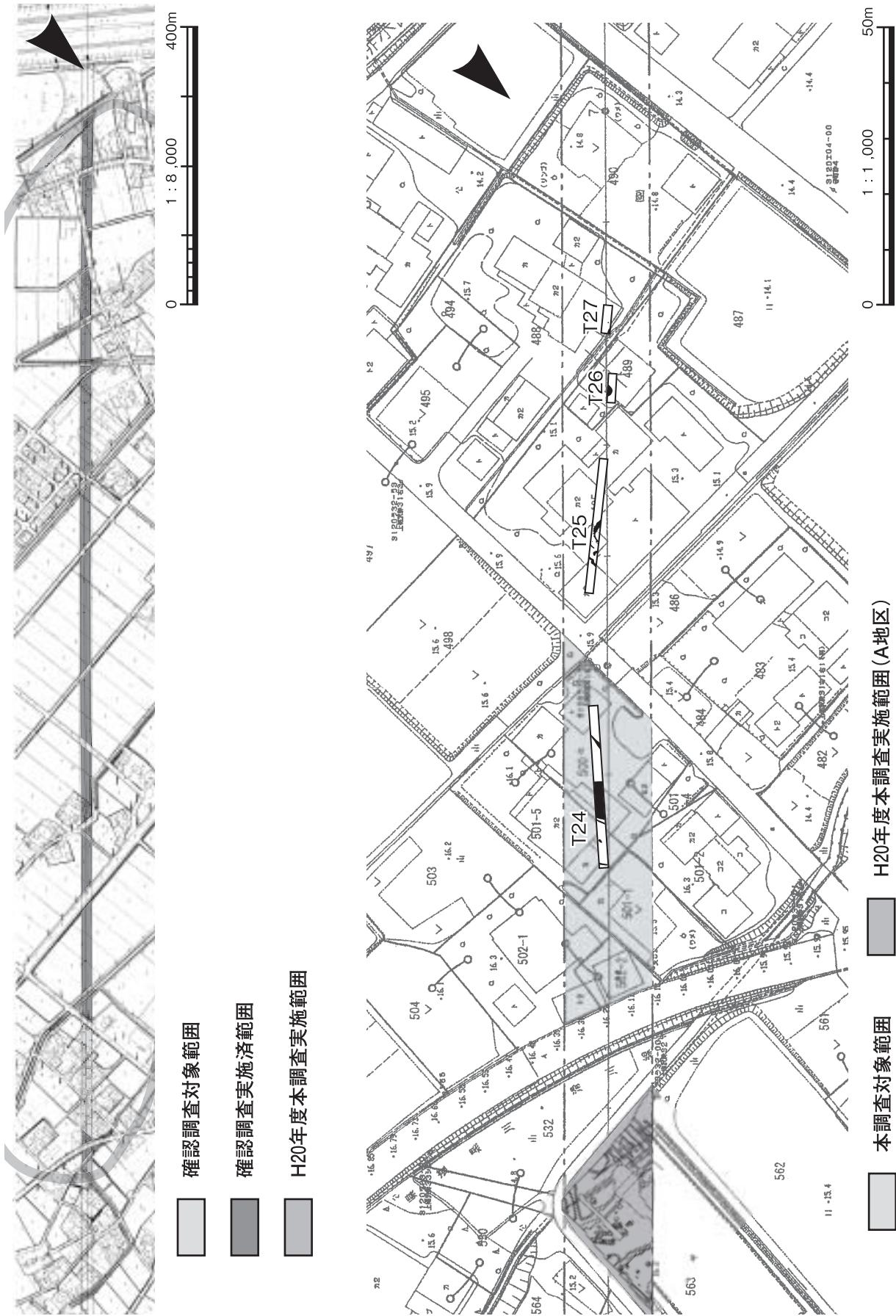
層位	地層	土色・土質・層厚	
		東側（T 24）	西側（T 25～27）
I層	表土・盛土	暗オリーブ褐色砂質土（35～90cm）	黒褐色砂質シルト（40～75cm）
II層	遺物包含層	黒褐色砂質シルト ・黒褐色シルト（10～31cm）	黒褐色砂質シルト ・オリーブ褐色砂質土（10～38cm）
III層	地山	にぶい黄色砂質シルト	明黄褐色砂質シルト
IV層	地山	明黄褐色シルト	灰色砂質土

##### 調査結果

調査前の現況が宅地であったため、その基礎等で攪乱を大きく受けていたが、調査対象地東端のT 24で遺構及び遺物包含層を検出した。遺構は溝を検出し、古墳時代～古代の土師器・須恵器が出土した。この遺構は、2008年調査T 22の結果と類似しており、この遺構群の続きと考えられる。

T 25～27では、T 25で溝4・柱穴6、T 26で土坑1、T 27で土坑1・柱穴1を検出したものの埋土に近世～近代の遺物が含まれており、近世以降の所産と考えられる。

以上の結果から、本調査を対象とする範囲は遺構・遺物包含層を検出したT 24を含む箇所に限定され、その面積は660m<sup>2</sup>となる。遺跡の時期は、古墳時代～古代と考えられる。なお、この部分とT 22付近をあわせた854m<sup>2</sup>については今年度本調査を行い、古墳時代初頭の円墳・飛鳥時代の竪穴住居・古代の掘立柱建物などを検出している（財団2009d）。



第6図 上梅沢遺跡 調査対象範囲（1:8,000）・検出遺構平面図（1:1,000）

## 2. 富山市水橋上砂子坂遺跡

### 調査対象地

水橋上砂子坂遺跡は、富山市東方の富山平野中央部に位置する東西約1.2kmに及ぶ細長い遺跡である。遺跡の立地は、常願寺川と上市川にはさまれた常願寺川扇状地で、標高6.9～7.2m（現況）を測る。土地分類図では、扇状地性低地・グライ土壤に分類される。遺跡の両端には、市境をはさんで東側に砂子坂遺跡（縄文～中世散布地）と西側にHS-07遺跡（古代～近世散布地）と接する。

遺跡は、1988～1991年に富山市教育委員会（以下富山市教委）による分布調査で発見され、1993年の北陸新幹線建設に先立ち県教委の分布調査により現在の遺跡範囲となっている。2008年には、富山市教委が遺跡中央部で本調査を実施し、中世～近世の掘立柱建物・井戸・道路・溝・土坑などを検出している（富山市教委2009）。このほかに2001・2005・2007年に住宅造成関係等で試掘調査を実施したが、本調査には至っていない（富山市教委2002・2008a、県埋文センター2006）。

北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査は、これまでに2005・2006・2007年の3度行われている。2005・2006年の調査は、遺跡の東側を対象としたが古代～近世の遺物が出土するだけで遺構ではなく、本調査不要と判断した（財団2006・2007）。2007年の調査は、中央および西側を対象としたが遺構・遺物ではなく、本調査不要と判断した（財団2008）。

今回の確認調査対象範囲は、2005～2007年調査対象地の未調査部分で遺跡の中央部分にあたる。トレンチは、調査対象地内にT1～6の6本を設定し調査を行った。

### 基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚	
		東側（T1～4）	西側（T5・6）
I層	表土・盛土	暗灰黄色シルト ・黄褐色砂質シルト（10～84cm）	オリーブ黒色シルト（20～40cm）
II層	自然流路	灰白色砂（10～74cm）	にぶい黄橙色砂（50～84cm）
III層	湿地堆積層	暗灰黄色ピート	黒褐色ピート（10～20cm）
IV層	湿地堆積層		オリーブ褐色粘土質シルト（15～40cm）
V層	湿地堆積層		灰色粘土質土

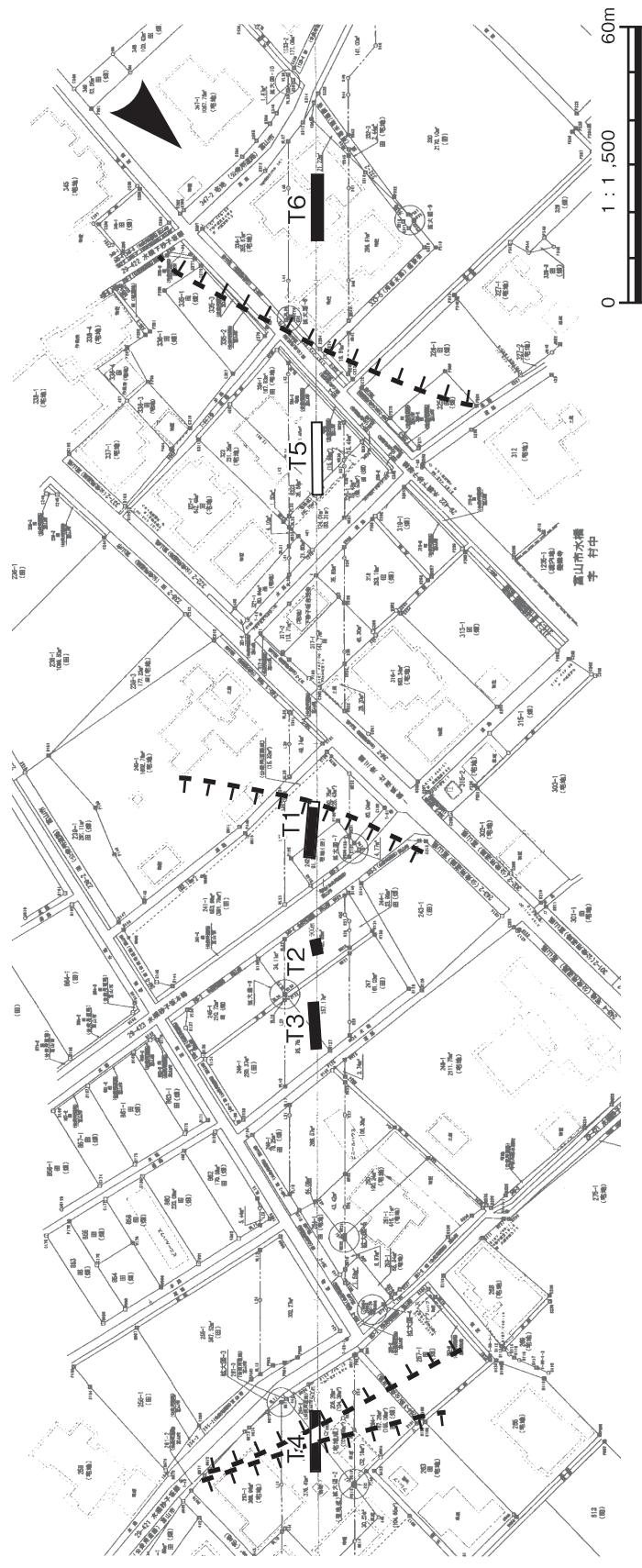
### 調査結果

調査対象地中央部のT1～4・6では砂層埋土の自然流路を検出した。遺物はT1から須恵器、T3から肥前陶磁器が出土しており、近世以降の所産と考えられる。東端のT6では、自然流路埋土直上で柱根3基を検出した。柱根は、小型の2基が東西方向に並び、大型の1基が単独でトレンチ東側から出土した。これらは、自然流路埋土直上にあることから近世以降と考えられる。T5は、湿地堆積層が幾重にも重なるだけで遺構及び遺物包含層はなかった。

以上の結果から、今回の調査対象地においては本調査を必要としない。また、2005～2007年の確認調査の結果を踏まえると北陸新幹線本線部分においては本調査を必要とする箇所はない。このため、遺跡の本体は2008年に富山市教委が本調査を実施した遺跡の中央南側の諏訪社～番田川付近にあるものと考えられる。



確認調査実施範囲



第7図 水橋上砂子坂遺跡 トレンチ配置図 (1:5,000)・検出遺構平面図 (1:1,500)

### 3. 富山市小竹貝塚

#### 調査対象地

小竹貝塚は、富山市西方の射水平野東端に位置する直径約250mの円形を呈する遺跡である。遺跡の立地は、呉羽丘陵西側から延びる微高地と沖積平野との境目にあり、遺跡東部を新鍛冶川が流れる。標高は現況で3.2~3.8mを測る。土地分類図では、三角州性低地・細粒グライ土壌・過湿地帯に分類される。

遺跡は、戦前からその存在が知られ、高瀬保氏や岡崎卯一氏らによって調査が行われていた（高瀬1958・岡崎1966）。行政機関による発掘調査は、1971年に新鍛冶川開鑿に伴い県教委が本調査を行い、貝層・土器捨場・墓域を検出している（県教委1972）。その後富山市教委による試掘調査が度々行われ遺跡範囲・貝層分布を想定している（富山市教委1974・山内他1993）。2008・2009年には、富山市教委が新鍛冶川河岸改修工事に伴い、確認調査を行い北側で貝層・墓域、南側で住居域を確認している（富山市教委2008 b）。

北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査は、これまでに2007・2008年の2度行われている。2007年の調査は、遺跡の東側を対象としたが湿地性堆積層を確認しただけで本調査不要と判断した（財団2008）。2008年の調査は、2007年調査地の南側を対象とし縄文時代前期の土器捨場・遺物包含層を確認し、今年度にA地区と称して本調査を行っている。この本調査では、前期中葉・後葉・末葉の3層の生活面を確認し、竪穴住居・柱穴群・土器捨場などを検出した（財団2009 c）。

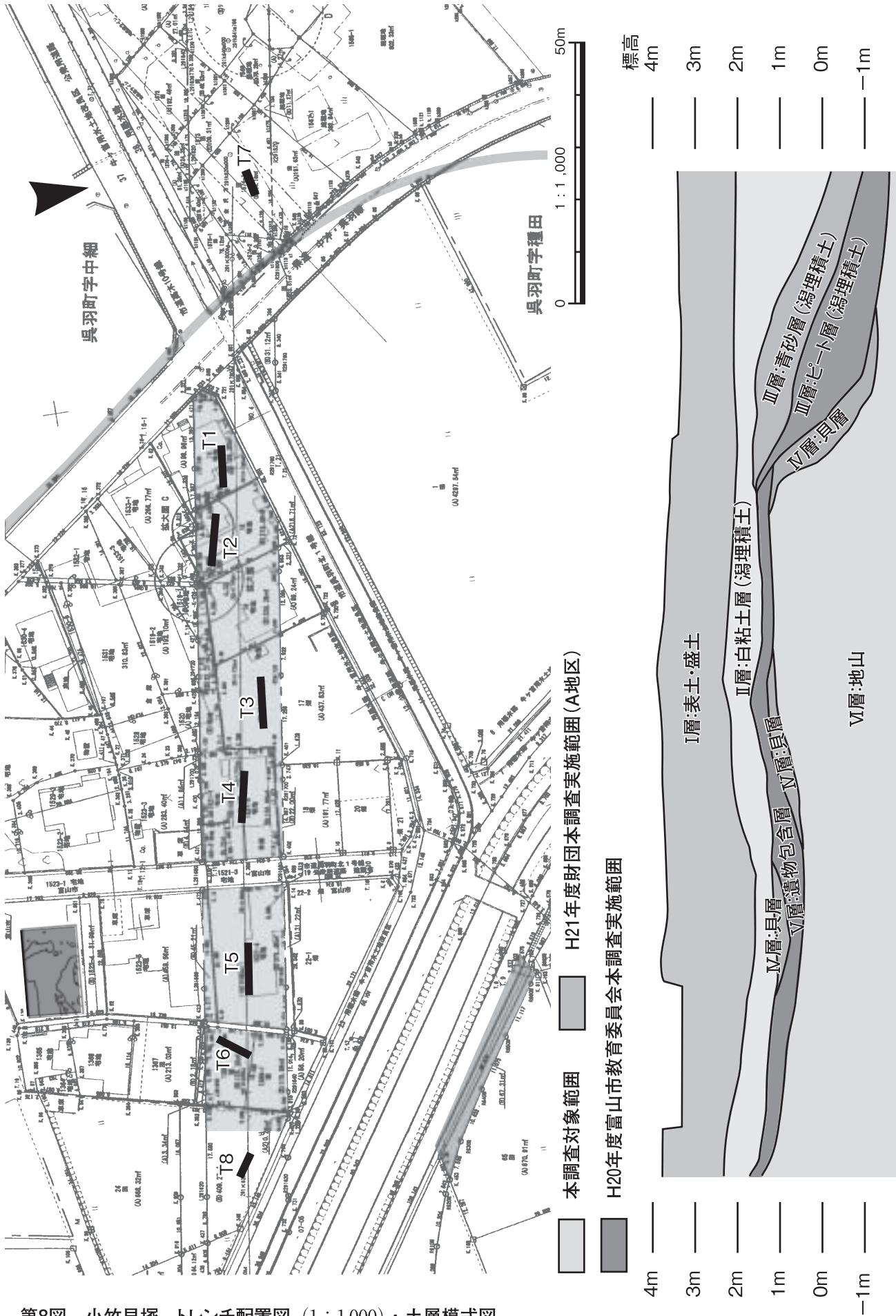
今回の確認調査対象範囲は遺跡中央部の富山市呉羽町北地内である。トレンチは、調査対象地内にT 1~6・8の7本と遺跡西側隣接地にT 7の1本を設定し調査を行った。

#### 基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚	
		西側（T 1・2・7）	東側（T 3~6・8）
I層	表土・盛土	オリーブ黒色シルト（120~220cm）	
II層	渇埋積土	灰オリーブ色粘質土に植物遺体を含む	（30~100cm）
III層	渇埋積土	灰オリーブ色砂質土（50~100cm）	
IV層	貝層	黒褐色シルト（90cm以上）	黒褐色シルト（30~50cm）
V層	遺物包含層	黒色シルト（10~40cm）	黒色シルト（20~30cm）
VI層	地山	黒褐色シルト	褐灰色粘土質シルト（70cm）
VII層	地山		礫層

#### 調査結果

調査対象地の中央（T 1~6）で遺物包含層及び貝層を検出した。貝層は、T 1~4で純貝層、T 5で破碎貝層を検出した。貝層は主にその表面検出にとどめたが、一部試掘し、T 2・4で厚さ50cm以上におよぶヤマトシジミの純貝層を確認した。このことから、T 1~4は富山市教委2008年調査区で検出した貝層、T 5は財団今年度本調査A地区で検出した破碎貝層にそれぞれ類似しその続きと考えられる。貝層からは、前期後葉～末葉（蜆ヶ森I式～福浦上層式）の縄文土器、磨製石斧・砥石・叩石・石皿・異形石器・玦状耳飾などの石器、イヌ・イノシシ・シカなどの動物遺体、クルミなどの植物遺体が出土した。このほかにT 1~6では、遺物を大量に含む包含層を確認した。遺物包含層からは、早期末葉～前期末葉（佐波・極楽寺式～福浦上層式）の縄文土器、磨製石斧・石錐などの石器、髪針・刺突具などの骨角器、ヒト・イルカなどの動物遺体が出土した。



第8図 小竹貝塚 ブレンチ配置図 (1:1,000)・土層模式図

T 7 は、遺跡範囲外ではあるが T 1 で貝層を検出していることから確認調査を行ったものの貝層や遺物包含層なく、湿地性の堆積のみで、県道中沖・呉羽線以西には遺跡範囲は広がらないことを確認した。T 8 は、遺物包含層を確認したが遺物量は少なく遺跡の東端と考えられる。

以上の結果から、本調査を対象とする範囲は調査対象地の中央部（T 1 ~ 6）で面積は約1,500m<sup>2</sup>である。なお、北陸新幹線建設工事にかかる部分の本調査面積は、1,040m<sup>2</sup>となる。遺跡の時期は、出土遺物から貝層が前期後葉～末葉、遺物包含層が前期初頭～前期末葉と考えられる。

## 4. 射水市HS-04東遺跡

### 調査対象地

HS-04東遺跡は、射水市東方の射水平野中央部に位置し、富山市との市境で長径約220mの東西に長い楕円形を呈する遺跡である。新堀川右岸に立地し、標高1.1~1.2mを測る。土地分類図では、三角州性低地・細粒グライ土壤に分類される。遺跡周辺は、古代～中世においては加茂社領莊園である倉垣莊の一部であった。

遺跡は、北陸新幹線建設に伴い県教委が分布調査で発見した。富山県遺跡台帳には、古代～中世の散布地として登録されている。これまでに発掘調査は行われていない。

トレントは、調査対象地に2本（T 1・2）を設定し調査を行った。

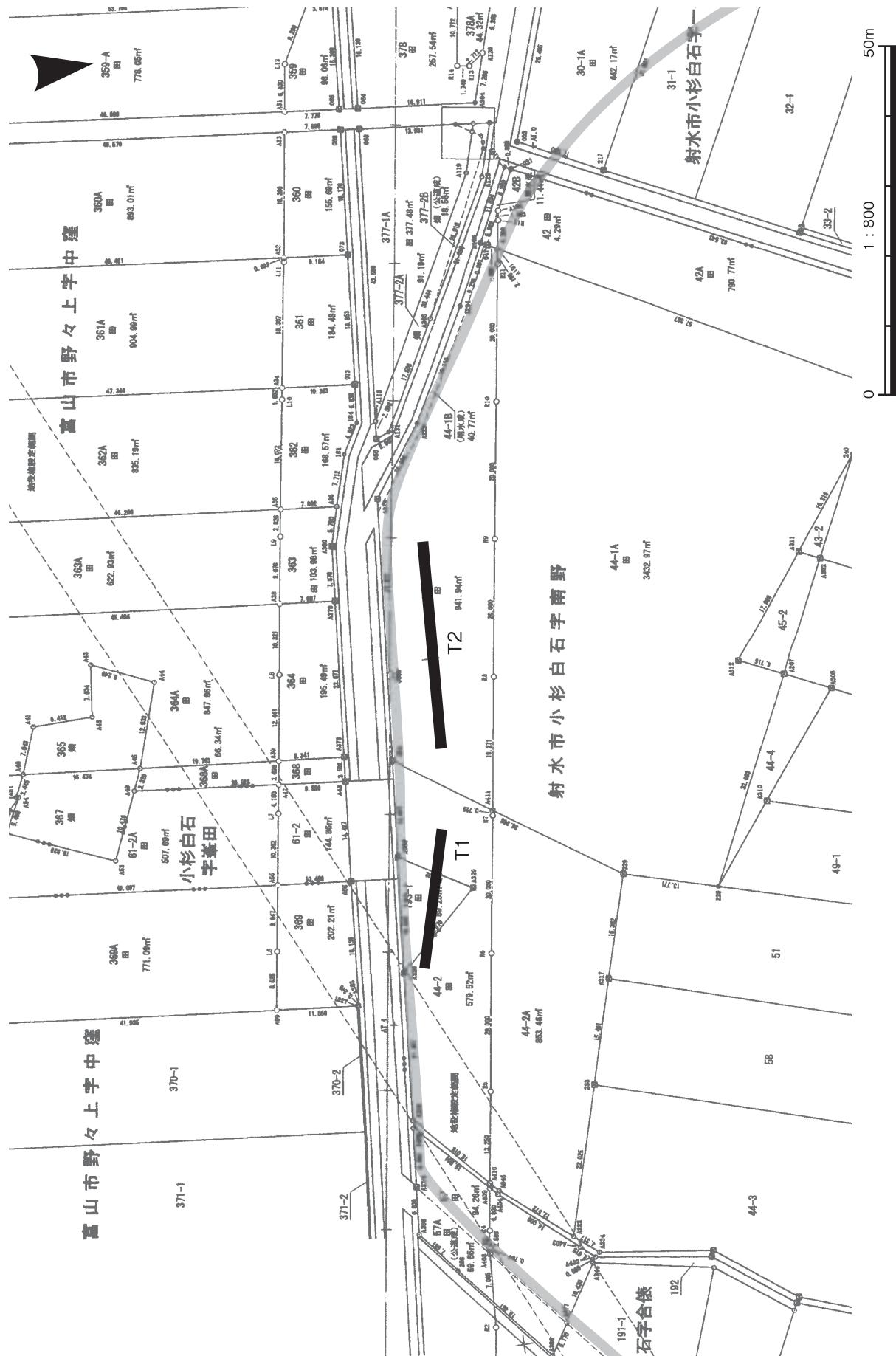
### 基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚	
I層	表土	黄灰色シルト	(18~35cm)
II層	旧表土	黒褐色粘土質シルト	(2~30cm)
III層	潟埋積土	オリーブ灰色砂質シルト	(50~100cm)
V層	潟埋積土	黒褐色粘土質シルト	(20cm)
VI層	地山	灰色砂質シルト	

### 調査結果

調査対象地は、旧表土下に放生津潟埋積時とみられる湿地堆積層が重なるだけで遺構・遺物はなかった。遺跡の標高は現況でも1m前後と低いため、上部を圃場整備に削平されている可能性もあり遺構検出面となりうる層も見あたらなかった。

以上の結果から、調査対象地において本調査を必要としない。



第9図 HS-04東遺跡 トレンチ配置図 (1:800)

## 5. 射水市HS-04（愛宕）遺跡

### 調査対象地

HS-04遺跡は、射水平野中央部に位置する東西約2.4kmにも及ぶ細長い遺跡である。下条川右岸に立地し、標高1.8~2.4mを測る。土地分類図では、三角州性低地・グライ土壤に分類される。遺跡周辺は、中世においては大乗院領荘園である大袋莊の一部であった。

遺跡は、北陸新幹線建設に伴い1985年に県教委が分布調査で発見し、当初は新幹線No.4遺跡と仮称されていた。遺跡が広大であることからこれまでに射水市教育委員会（以下射水市教委）によって1990~2007年に民間開発関係、1997~1999年に県道改良関係、1998年にグランド造成関係など数多くの試掘調査が行われている（小杉町教委1991・1994・1997~2001、県埋文センター2005、射水市教委2009）。大規模な本調査は、遺跡の中央部で1996年のふるさと農道建設に伴う調査（古代～中世の集落）や遺跡の西端で1996・1997年に行われた下条川改修に伴う調査（弥生時代終末期～中世の集落）が行われている（小杉町教委1997~1999）。北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査は、2008年に遺跡の東側で行い、古墳時代と中近世の集落を確認（財団2009a）し、大江遺跡として今年度本調査を行っている。

今回の確認調査対象範囲は、遺跡の西側で県道白石・西高木・戸破線～下条川間の射水市戸破字神田地内である。トレーニチは、調査対象地の東から西にT 1~8の8本を設定した。なお、T 6については地元の要望により掘削を実施しなかった。

### 基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I層	表土	暗オリーブ褐色シルト (6~44cm)
II層	遺物包含層	黒褐色シルト (5~40cm)
III層	潟埋積土	灰黄褐色粘質土 (20~42cm)
IV層	潟埋積土	黒色シルトに植物遺体含む (16~22cm)
IV層	潟埋積土	黄褐色シルトに植物遺体を含む (16~26cm)
IV層	潟埋積土	灰シルトに植物遺体を含む

### 調査結果

調査対象地の西端（T 8）で遺物包含層及び遺構を検出した。T 8では、溝および土坑を検出した。遺物は、須恵器・中世土師器・瀬戸が出土しており、古代～中世の所産とみられる。このほかにT 2で溝1、T 3で溝2・柱穴2、T 4で溝1、T 5で溝1・土坑1・柱穴2を検出しているが、遺構の連続性は見られなかった。また、一部で遺構検出面（III層）より下層についても確認調査を行ったが、湿地性の潟埋積土が連続するだけであった。

以上の結果から、本調査を対象とする範囲は調査対象地の西端（T 8）で面積は830m<sup>2</sup>である。遺跡の時期は、出土遺物と射水市教委による隣接地の調査結果から古代～中世と考えられる。また、確認調査を行わなかった県道白石・西高木・戸破線～T 1の間についてはT 1と2008年の確認調査の結果から本調査不要と判断した。なお、確認調査の結果、射水市教委により包蔵地の変更がなされ、HS-04遺跡西端（T 8）は、隣接する愛宕遺跡の拡大に伴い同遺跡に含まれた。



第10図 HS-04遺跡 調査対象範囲 (1:12,000)・検出遺構平面図 (1:2,000)

## 6. 射水市愛宕遺跡

### 調査対象地

愛宕遺跡は、射水市中央部の射水平野中央部に位置する。下条川左岸に立地し、標高2.4～2.6mを測る。土地分類図では、三角州性低地・グライ土壌に分類される。遺跡周辺は、中世においては大袋荘の一部であった。遺跡の両端には、東側に下条川をはさんでHS-04遺跡、西側に小杉地区・大島地区の旧行政区境をはさんで今開発東遺跡がある。

遺跡は、以前より周知されていたが北陸新幹線建設に伴う県教委の分布調査で遺跡範囲が拡大した（HS-03遺跡と合併）。遺跡の調査は、射水市教委により1995～1998年にふるさと農道、2002・2003・2007年に民間開発に伴う調査が行われている（小杉町教委1997～1999、射水市教委2008）。ふるさと農道関係の本調査では、弥生時代～近世の各時期の集落を検出している。北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査は、2008年に遺跡の西側（県道堀岡・小杉線～今開発東遺跡間）で行い、その西端と東端で弥生時代～中世の遺構を検出し、今年度西端をA地区、東端をB地区として本調査を実施した。

今回の確認調査対象範囲は、遺跡の東側で下条川～県道堀岡・小杉線間の射水市戸破字神田・三ヶ字茶ノ木地内である。トレーニチは、調査対象地の西から東にT 1～4の4本を設定した。

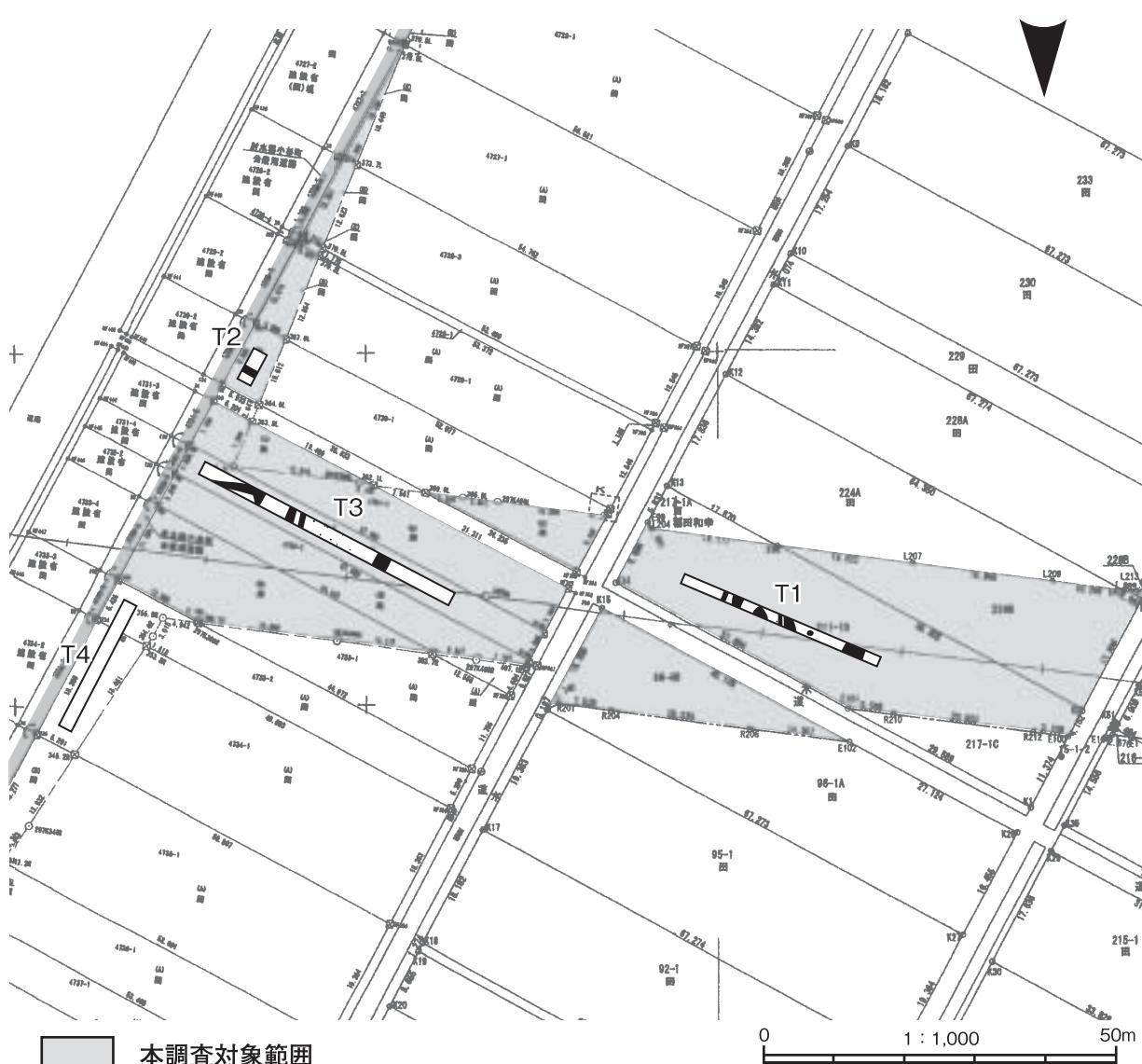
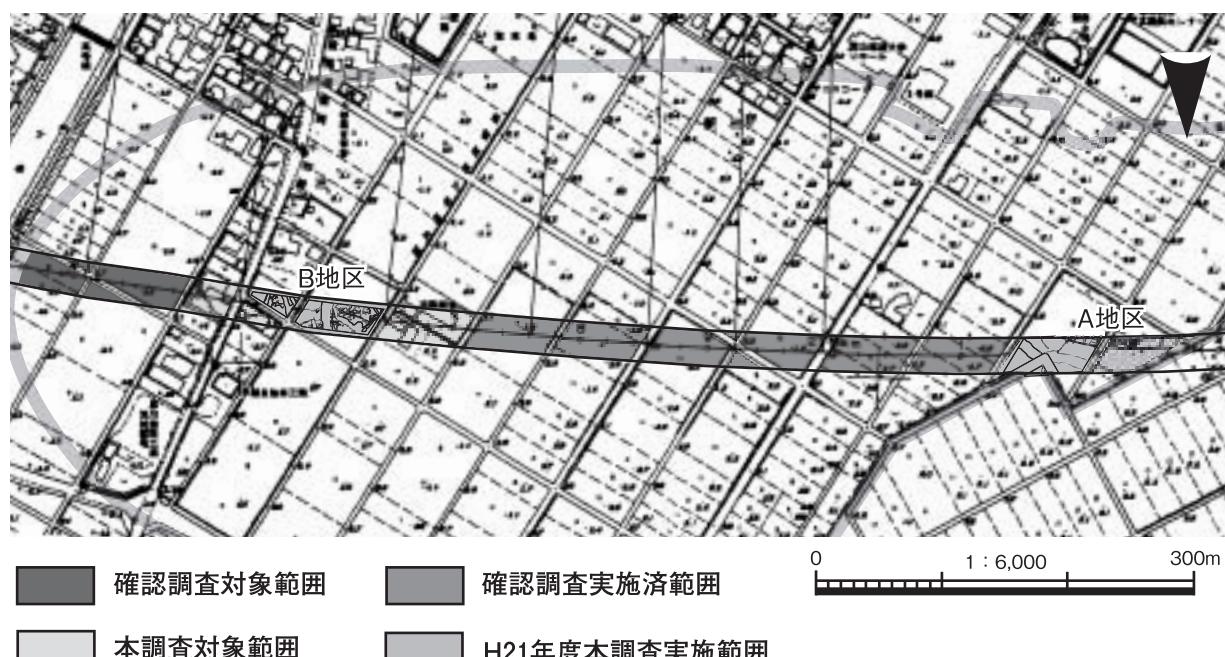
### 基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I層	表土	黄褐色砂質シルト (10～40cm)
II層	遺物包含層	灰黄褐色シルト (10～40cm)
III層	潟埋積土	浅黄色粘質土 (12～40cm)
IV層	潟埋積土	にぶい黄褐色砂質土 (20～24cm)
V層	潟埋積土	灰色粗砂 (10～50cm)
VI層	潟埋積土	暗灰黄色粘土質シルト (20～30cm)
VII層	潟埋積土	黒色シルト (20～34cm)
VIII層	潟埋積土	灰オリーブ色シルト

### 調査結果

調査対象地の全域（T 1～3）で遺構・遺物包含層を検出した。T 1では、溝5条・土坑3基を検出した。遺物は、古墳時代の土師器・砥石が遺構内から出土している。T 2では溝1条、T 3では溝5条・柱穴9基を検出した。遺物は、溝・遺物包含層から珠洲が出土している。T 1とT 2・3との間には地境となる農道が走っておりこれによって遺構の時期が異なる。遺構の時期は、農道西側のT 1（三ヶ字茶ノ木地内）は古墳時代、農道東側のT 2・3（戸破字神田地内）は中世である。T 4では、遺構・遺物包含層がなく潟埋積土がみられるだけであった。

以上の結果から、本調査を対象とする範囲は調査対象地のT 1～3付近で面積は1,487m<sup>2</sup>である。なお、今年度の本調査を行ったB地区の結果から残りの確認調査対象地（T 1～県道堀岡・小杉線間および本保建設用地）についても本調査を必要とする。このため、今後本調査を必要とする面積はあわせて4,770m<sup>2</sup>である。遺跡の時期は、遺跡東端の下条川～農道では中世で、射水市教委が下条川改修に伴う本調査（HS-04遺跡）で検出した中世集落の一部と考えられる。農道から西側は、弥生～古墳時代で今年度本調査B地区の弥生～古墳時代の集落の一部と考えられる。このように遺構の時期を分ける農道部分は、地境にもなっていることから旧下条川の可能性がある。



第11図 愛宕遺跡 調査対象範囲 (1:6,000)・検出遺構平面図 (1:1,000)

## 7. 射水市今開発東遺跡

### 調査対象地

今開発東遺跡は、射水市中央の射水平野中央部に位置する。庄川と下条川に挟まれた沖積地に立地し、標高2.4～2.9mを測る。土地分類図では、三角州性低地・グライ土壤に分類される。遺跡周辺は、中世においては大袋莊の一部であった。遺跡の両端は、大島地区・小杉地区の旧行政区境をはさんで東側に愛宕遺跡と西側に今開発遺跡と接する。

遺跡は、県教委による北陸新幹線建設予定地の分布調査でHS-03遺跡として発見された。現在は、古代～近世の散布地として県の遺跡台帳に登録されている。これまでに発掘調査は行われていない。

今回の確認調査対象範囲は、遺跡の中央部で、トレンチは、調査対象地の西から東にT1～13の13本を設定した。なお、調査対象地の地下には暗渠排水が埋設されておりこれを破損しないようにトレンチは水田の長軸と同じ南北方向に設定し調査を実施した。

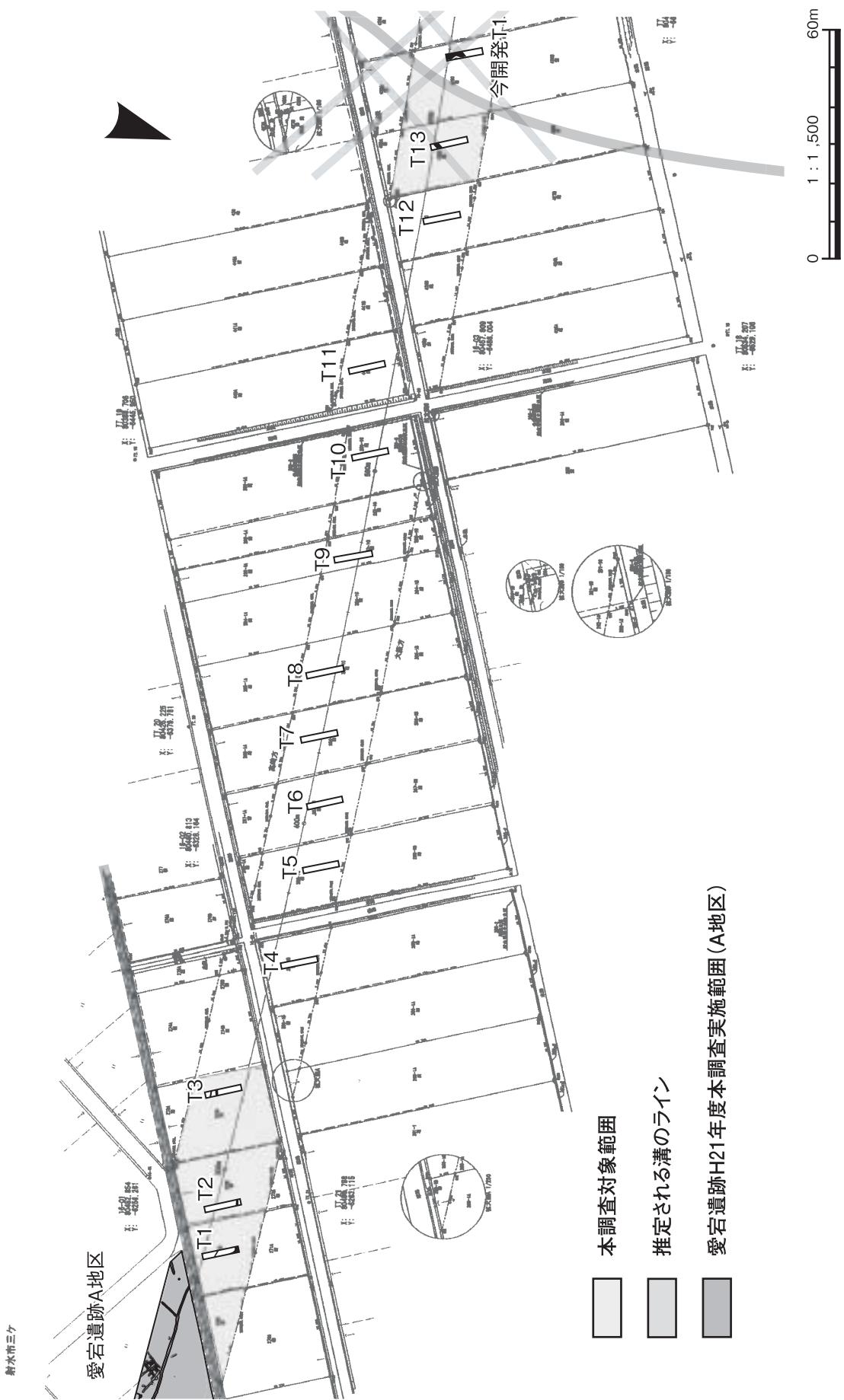
### 基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I層	表土・盛土	暗灰黄色粘土質シルト・黄灰色粘土質シルト (10～62cm)
II層	遺物包含層	黄灰色粘土質シルト・黒褐色シルト (4～50cm)
III層	渦埋積土	灰色粘土質シルト (2～30cm)
IV層	渦埋積土	黒色ピート・黒褐色ピート (6～40cm)
V層	渦埋積土	灰黄色粘土質シルト・灰色粘土質シルト (5～25cm)
VI層	渦埋積土	黒色ピート・黒褐色ピート (5～14cm)
VII層	渦埋積土	灰色粘土質シルト

### 調査結果

調査対象地の東端（T1～3）と西端（T13）で遺構・遺物包含層を検出した。遺跡の東端では、T1～3で溝を検出した。遺物は、溝から須恵器・珠洲、遺物包含層から土師器が出土している。これらの溝は、隣接する今年度本調査を実施した愛宕遺跡A地区に続く遺構と考えられる。西端では、T13で溝を検出した。これは、今開発遺跡の溝群にその規模・方向が類似し、建物などが伴わないことと、遺構検出面であるIII層直上で足跡とみられる小穴を多数検出したことから今開発遺跡同様に中世の水田に関わる遺構と考えられる。なお、遺跡中央部のT4～12は、珠洲や土師器が出土しているものの地山まで削平が及んでおり足跡状小穴以外の遺構は検出できなかった。

以上の結果から、本調査を対象とする範囲は調査対象地の東端（T1～3）と西端（T13）付近である。なお、確認調査の結果、射水市教委により包蔵地の範囲変更がなされ、東側へ拡大して隣接する愛宕遺跡A地区を含むものとなった。また、西側はT3付近までとなり、T13付近は、今開発遺跡の拡大に伴い、同遺跡の範囲内に含まれた。このため、今開発東遺跡の本調査対象範囲はT1～3付近で、面積は2,010m<sup>2</sup>（1面）となる。



第12図 今開発東遺跡 検出遺構平面図 (1:1,500)

## 8. 射水市今開発遺跡

### 調査対象地

今開発遺跡は、射水平野中央部に位置する。庄川と下条川に挟まれた沖積地に立地し、標高2.5～3.0mを測る。土地分類図では、三角州性低地・グライ土壤に分類される。遺跡周辺は、中世においては大袋荘の一部であった。遺跡の南部には”おこり落としの宮”と称される14C後半～15C前半の石塔四方四仏多層塔（射水市指定文化財）が存在する。近世初めには、水田開発に伴い下条川から取水した曲柳用水が流れていた。

遺跡は、1992年大規模住宅団地造成計画に伴い県教委による分布調査で四方四仏多層塔に関わる中世墓の広がりとして登録された。発掘調査は、1998年に射水市教委が遺跡の北部で公民館建設に伴い試掘調査を行ったが、遺構・遺物は見つかっていない。

今回の確認調査対象範囲は、遺跡の中央部で、トレーニチは、調査対象地の西から東にT 1～8の8本を設定した。なお、トレーニチの方向は、今開発東遺跡同様に南北方向に設定し調査を実施した。

### 基本層序

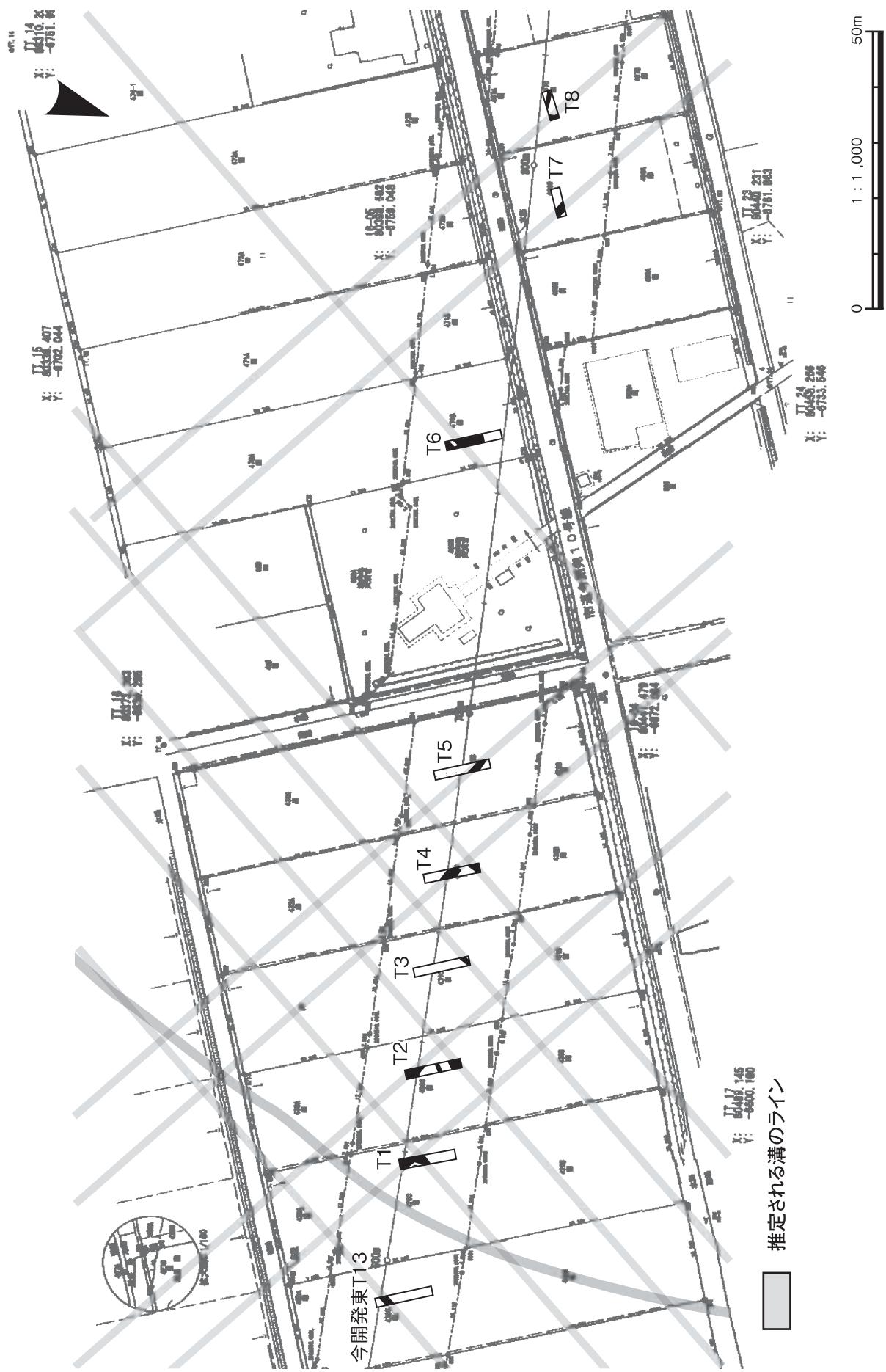
層位	地層	土色・土質・層厚
I層	表土・盛土	暗灰黄色粘土質シルト・黄灰色粘土質シルト (18～55cm)
II層	遺物包含層	黄灰色粘土質シルト・黒褐色粘土質シルト (5～70cm)
III層	潟埋積土	灰色粘土質シルト・オリーブ灰色砂質シルト (10～30cm)
IV層	潟埋積土	黒色ピート・黒褐色ピート (10～32cm)
V層	潟埋積土	灰黄色粘土質シルト・灰色粘土質シルト (10cm)
VI層	潟埋積土	オリーブ灰色粘土質シルト (20cm)
VII層	潟埋積土	オリーブ灰色細砂

### 調査結果

調査対象地の全域で遺物包含層及び遺構を検出した。遺構は、全域で溝を検出した。溝は、幅20～45cmでほぼ東西方向と南北方向に走り直交していた。遺構検出面となるIII層直上には、溝埋土と同様な土壤が斑点状に点在しており足跡とみられる。このことから今開発遺跡はその名の由来にあるように中世における放生津潟干拓によって作られた水田とそれに関わる水路と見られる。遺物は、溝から須恵器・土師器・中世土師器・板、遺物包含層からは珠洲が出土している。このほかに下層(IV層)から縄文土器(晚期)片が出土している。

以上の結果から、本調査を対象とする範囲は確認調査対象範囲ほぼ全域でその面積は2,100m<sup>2</sup>（1面）となる。調査対象地のほぼ中央部にある天満宮部分については確認調査を実施できなかったが、隣接するT 5・6の状況から本調査必要範囲に含めた。遺跡の時期は、遺構出土遺物から古代～中世とみられる。なお、確認調査の結果、射水市教委により包蔵地の範囲変更がなされ、今開発遺跡は隣接する今開発東遺跡のT13付近を含み東側へ拡大した。また、路線幅の変更及び側道部分の追加により、今後本調査が必要な範囲は併せて5,870m<sup>2</sup>となる。

(町田賢一)



第13図 今開発遺跡 検出遺構平面図 (1 : 1,000)

## 9. 射水市水上・本開発（水上）遺跡

### 調査対象地

水上・本開発遺跡は、射水市本開発地区と水上地区にまたがり所在する遺跡である。庄川右岸に広がる射水平野の南西部に位置し、西の神楽川と東の下条川に挟まれた微高地上に立地している。標高は4.7～5.3mを測り、西側が低くなる。遺跡は、古代から中近世の散布地として知られ、周辺には熊野神社遺跡や赤井遺跡などの古代から中世にかけての散布地もあり、南西側はHS-03遺跡と接している。平成10(1998)年には、遺跡の北部で大島町教育委員会（現射水市教育委員会）が民間宅地造成事業に伴い発掘調査を行っており、近世北陸道の下街道が確認されている(大島町教委2000)。今回の確認調査対象範囲は、遺跡の南西部にあたる北陸本線以南の射水市新開発地内の水田部分で、トレーンチを5本設定し、調査を行った。

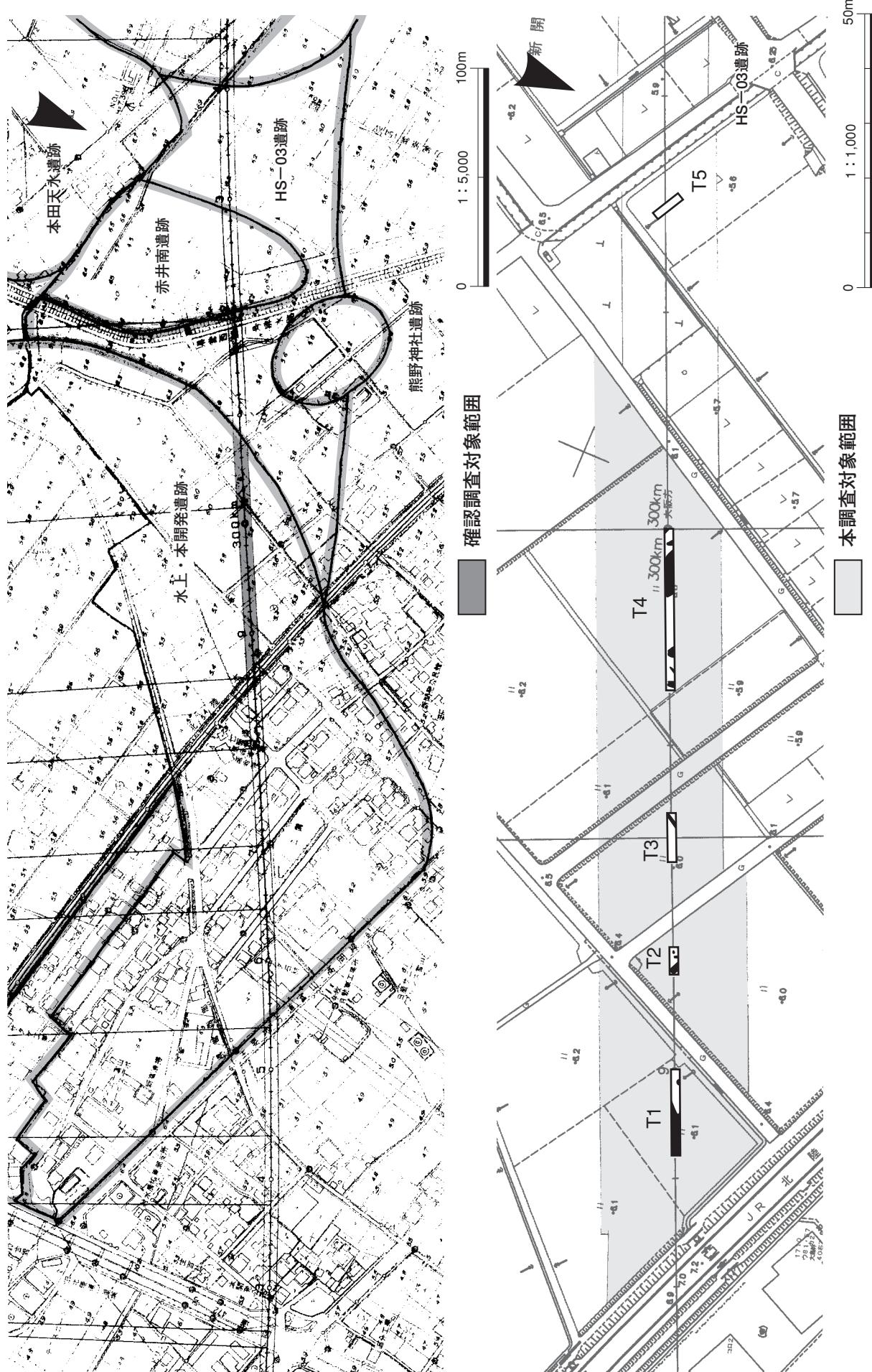
### 基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I層	表土	黒褐色粘土質シルト (20～30cm)
II層	遺物包含層	灰黃褐色粘質土 (5～15cm)
III層	地山	黃灰色砂質土・灰色砂 (20～50cm)
IV層	地山	緑灰色砂

### 調査結果

調査対象地東側のT1・T3・T4では、遺物包含層(II層)、及びIII層上面で遺構を検出した。遺構埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土を主体としている。T2では、I層直下がIII層となる。遺物は、遺物包含層及び溝埋土から土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・青磁・越中瀬戸が出土している。T5では、浅い溝を検出したが、近代以降の搅乱の可能性が高く、遺物も混入とみられる。また、T4の田面よりも一段低くなっている。後世の削平等により遺物包含層は遺存していない。

以上の結果から、本調査を必要とする範囲は遺構・遺物包含層を検出したT1～T4を含む、北陸本線からT4の田面までで、面積は3,260m<sup>2</sup>(1面)である。本調査対象範囲における遺跡の時期は、古代～中世と考えられる。また、用地未買収のため確認調査を実施しなかったT4とT5の間の墓地については、T5と同様に一段低くなっている。T5の結果からは本調査の必要はないとの判断した。なお、確認調査の結果、射水市教委により包蔵地の範囲変更及び名称変更がなされ、本調査対象範囲を含む北陸本線以南は“水上遺跡”となった。



第14図 水上・本開発遺跡 トレンチ配置図 (1:5,000)・検出遺構平面図 (1:1,000)

## 10. 射水市HS-03（赤井南）遺跡

### 調査対象地

HS-03遺跡は、庄川右岸の射水平野南西部に位置する。神楽川と下条川に挟まれた微高地上に立地している。県営西部一号排水路（神楽川）を挟んで北東側が標高4.6～4.7m、南西側が標高5.9～6.1mを測り、北に向かって緩やかに傾斜している。遺跡は射水市小杉地区・大島地区・大門地区の旧行政区境付近にあり、遺跡範囲が複雑に入りこんでいる。このため、トレンチ番号を遺跡毎とせずに水上・本開発遺跡、赤井南遺跡、安吉遺跡と連番とした。排水路北東側に2本、南西側に3本の計5本のトレンチを設定し、調査を行った。

### 基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚	
		T 6・T 7	T 11～T 13
I層	表土	黒褐色粘土質シルト（20～40cm）	黒褐色粘土質シルト（20～30cm）
II層	遺物包含層		黒色粘土（10～20cm）
III層	地山	灰色細砂	灰黄色粘土

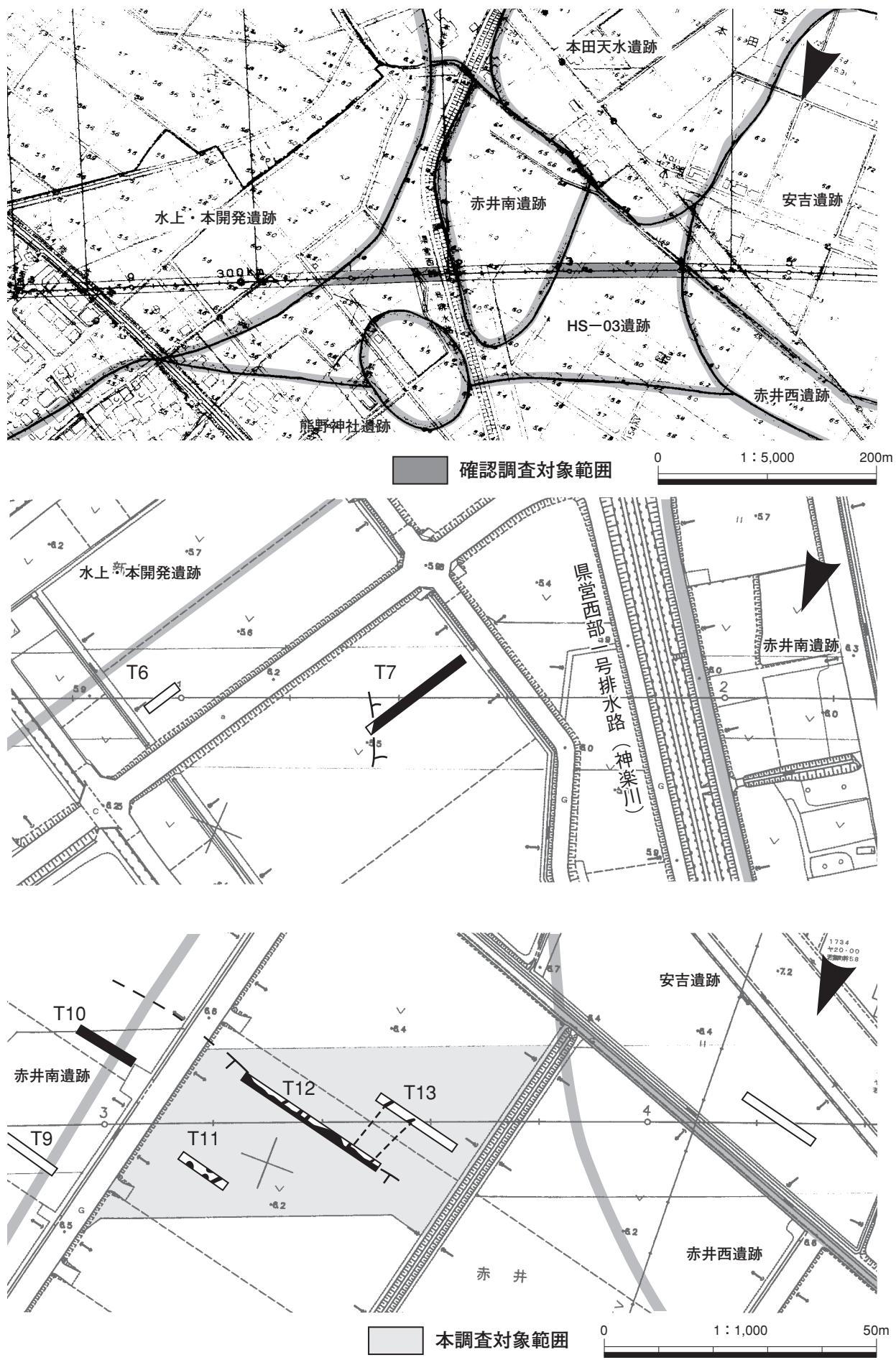
### 調査結果

調査対象地は、排水路際に赤井南遺跡が入り込んでおり、排水路の東西では基本層序を異にする。

T 6・T 7では、遺物包含層がなく、鉄分が沈着した水成堆積が40～60cm以上みとめられる。T 7の北端から南側に向かい大きく落ち込む自然流路を検出している。T 6全体は湿地状の水成堆積のみである。遺物は、珠洲と越中瀬戸がある。この自然流路は、排水路（神楽川）の旧流路と考えられ、本調査の必要はないと判断した。

T 11～T 13では、遺物包含層（II層）、及びIII層上面で溝・土坑・自然流路を検出している。T 12では、北に向かって大きく落ち込む自然流路の南側肩を検出している。T 13の西側では遺構は散発的となる。遺構埋土は、炭化物混じりの黒褐色砂質シルトを主体として、自然流路の埋土は粘性の強い黒色粘土である。遺物は、遺物包含層及び自然流路埋土から土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・伊万里が出土している。

以上の結果から、本調査を必要とする範囲は排水路南西側のT 11～T 13にかけての範囲で、面積は1,980m<sup>2</sup>（1面）である。本調査対象範囲における遺跡の時期は、古代～中世と考えられる。また、用地未買収のため確認調査を実施しなかったT 13西側については、T 13の西に向かって遺構が散発的になること、及び隣接する安吉遺跡の調査結果から、本調査の必要はないと判断した。なお、確認調査の結果、射水市教委により、包蔵地の変更がなされた。本調査対象範囲（T 11～T 13）は隣接する赤井南遺跡の拡大に伴い、同遺跡の範囲に含まれ、排水路北東側のHS-03遺跡については包蔵地の登録抹消となった。



第15図 HS-03遺跡 トレンチ配置図 (1:5,000)・検出遺構平面図 (1:1,000)

## 11. 射水市赤井南遺跡

### 調査対象地

赤井南遺跡は、庄川右岸の射水平野南西部に位置する。神楽川と下条川に挟まれた微高地上に立地しており、標高は6.0～6.2mを測る。遺跡は、射水市本田から赤井にまたがって所在し、HS-03遺跡の中に大きく入り込んでいる。周辺には赤井遺跡、安吉遺跡、本田天水遺跡などの古代から中世の遺跡がある。南側は本田天水遺跡と接している。遺跡範囲が複雑なためHS-03遺跡と同様に、トレンチ番号は遺跡毎とせず、水上・本開発遺跡、HS-03遺跡、赤井南遺跡、安吉遺跡で連番としている。水田毎にトレンチを3本設定し、調査を行った。

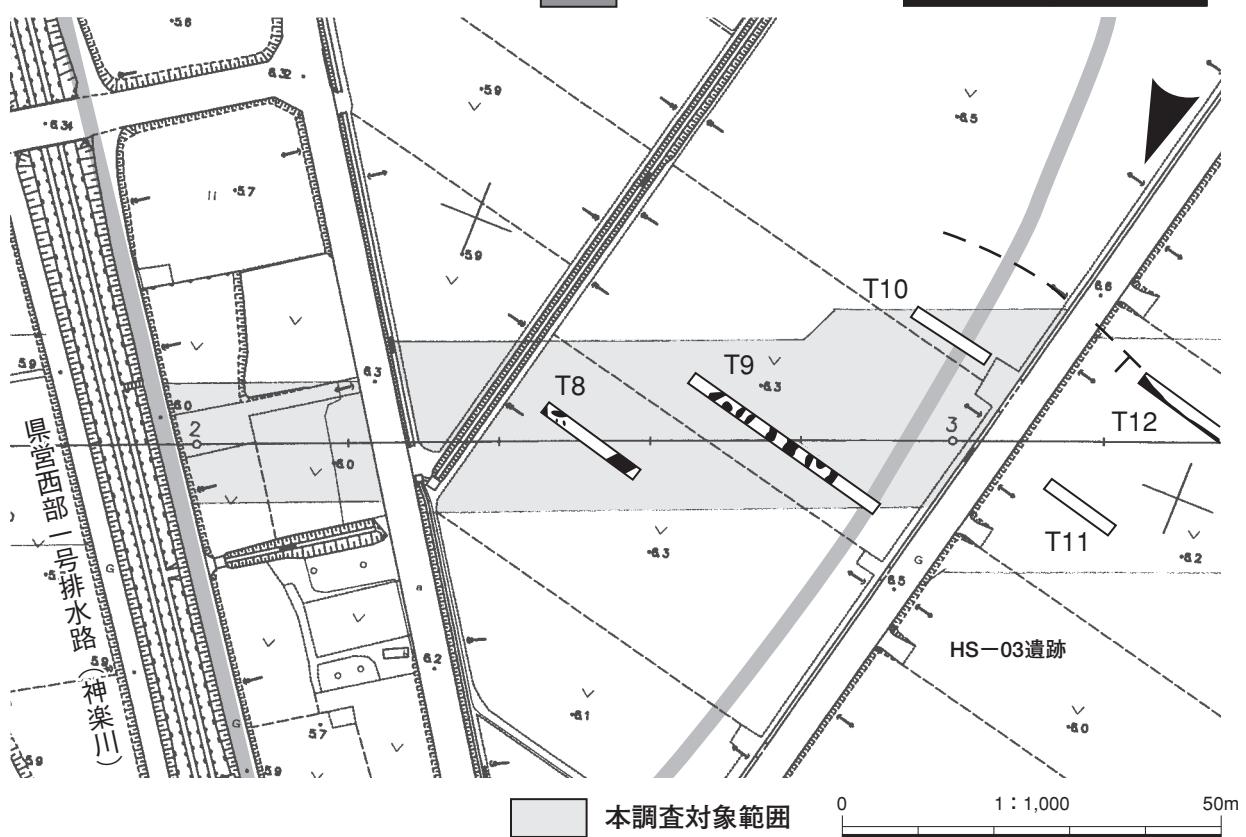
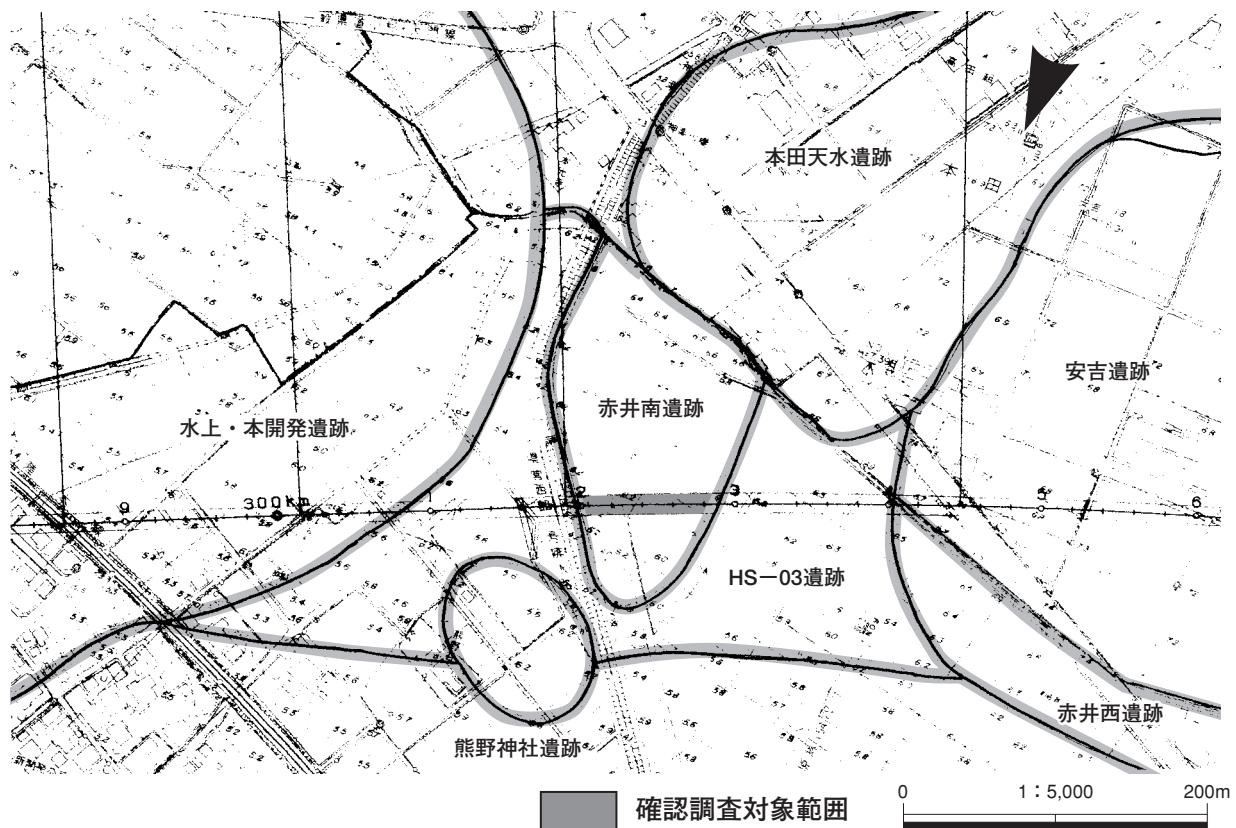
### 基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I層	表土	黒褐色粘土質シルト (20cm)
II層	地山	灰黄色砂質シルト (20～40cm)
III層	地山	黄灰色砂・灰色砂

### 調査結果

調査対象地の全域（T8～T10）で、II層上面で溝・土坑・自然流路を検出しているが、遺物包含層は確認できなかった。隣接するHS-03遺跡（T11～T13）の調査結果からみて、遺物包含層は削平されているものとみられ、赤井南遺跡のII層はT11～T13のIII層に相当する。T10は全体に黒褐色砂質シルトが70cm前後の厚さで堆積しており、HS-03遺跡のT12で検出した自然流路内にあたると考えられる。T8・T9では、遺構検出面がI層直下にあり、トレンチ周辺の田面で土師器・須恵器などの遺物が採取されていることからも、後世の削平等の影響を受けているものとみられる。遺構の埋土は、II層のブロック土及び炭化物混じりの黒褐色砂質シルトである。遺物は、I層及び遺構埋土から土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・伊万里・近世陶磁器が出土している。

以上の結果から、本調査を必要とする範囲は、調査対象地の全域（T8～T10）で、面積は2,090m<sup>2</sup>（1面）である。本調査対象範囲における遺跡の時期は、古代～中世と考えられる。なお、トレンチを入れなかったT8北側の農道と県営西部一号排水路（神楽川）間の畠地については、排水路北東側のHS-03遺跡（T6・T7）より一段高く、T8～T10の田面とほぼ同じ標高であることから、本調査対象範囲に含めた。なお、確認調査の結果、射水市教委により包蔵地の範囲変更がなされ、赤井南遺跡はHS-03遺跡T11～T13の範囲を含み西側へ拡大した。



第16図 赤井南遺跡 トレンチ配置図（1：5,000）・検出遺構平面図（1：1,000）

## 12. 射水市安吉遺跡

### 調査対象地

安吉遺跡は、庄川右岸の射水平野南西部に位置する。庄川水系の和田川と下条川に挟まれた微高地上に立地し、標高は6.5~6.8mを測る。遺跡は1993年に県教委の分布調査により「No15遺跡」と仮称され、1994年に大門町教育委員会（現射水市教育委員会）の試掘調査により中世～近世の遺跡として「安吉遺跡」と命名された（大門町教委1997 a）。1998年及び2004年に遺跡の中央部で大門町教育委員会が発掘調査を実施しており、中世の居館・集落を検出している（大門町教委1999・2005 a）。平成20（2008）年度には北陸新幹線関係で遺跡中央部に4本のトレンチを設定して確認調査を実施した。今年度は、本調査対象範囲となった5,900m<sup>2</sup>で、本調査を実施している。今回の確認調査対象範囲は、市道大門針原線北側の道路際で、安吉遺跡の北東端にあたる。現況は水田で、標高は6.2mを測る。トレンチを1本設定し、調査を行った。なお、トレンチ番号は水上・本開発遺跡以下連番としている。

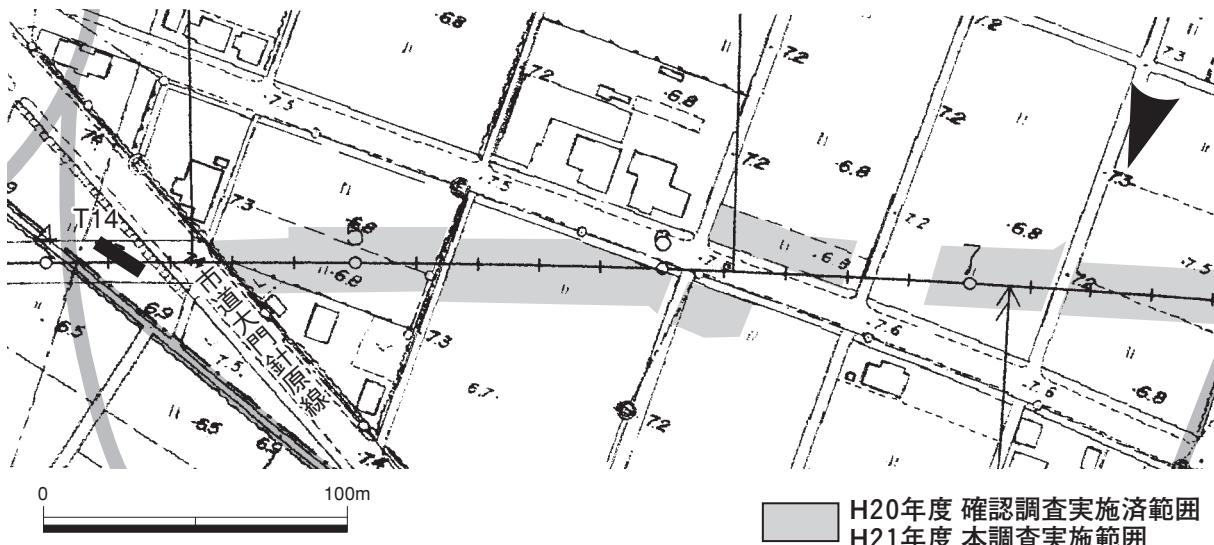
### 基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I層	表土・耕作土	I a: 黒褐色粘土質シルト (20cm) I b: 黒色粘質土 (20cm)
II層	地山	灰黄色粘土 (15~20cm)
III層	地山	灰色粘質土 (30cm)
V層	地山	灰色砂

### 調査結果

調査対象地（T14）では、現耕作土（I b層）直下が遺構検出面となっており、後世の削平等を受けているとみられ、遺物包含層は確認できなかった。II層上面で溝を検出したが、出土遺物はなく時期は不明である。市道大門針原線南側は今年度本調査対象地区で、道路際は遺構・遺物とともに稀薄な状態である。また、隣接するHS-03遺跡のT13の西側でも遺構・遺物は稀薄である。

以上の結果から、調査対象地全域（T14）は本調査の必要はない判断した。なお、確認調査の結果、射水市教委により包蔵地の範囲変更がなされ、安吉遺跡は市道大門針原線以南となり、今回の調査対象地は包蔵地外となった。



第17図 安吉遺跡 トレンチ配置図 (1 : 2,500)

## 13. 射水市本江畠田Ⅰ遺跡

### 調査対象地

本江畠田Ⅰ遺跡は、庄川右岸の射水平野南西部に位置する。和田川右岸の段丘状にやや高まる微高地先端部付近に立地する。標高は8.0～9.1mを測る。周辺には、二口油面遺跡・本田宮田遺跡・本江畠田Ⅱ遺跡などの弥生時代～古墳時代にかけての遺跡が多く存在する。1995年及び2004年には、遺跡南部で射水市教委により発掘調査が行われている。縄文晩期～中世にかけての遺構・遺物が確認されており、弥生時代の玉作りが行われていた集落の可能性が示唆されている（大門町教委1997b・2005b）。今回の確認調査対象範囲は遺跡の中央部で、主要地方道高岡・青井谷線以東の水田部分に2つのトレンチを設定し、調査を行った。

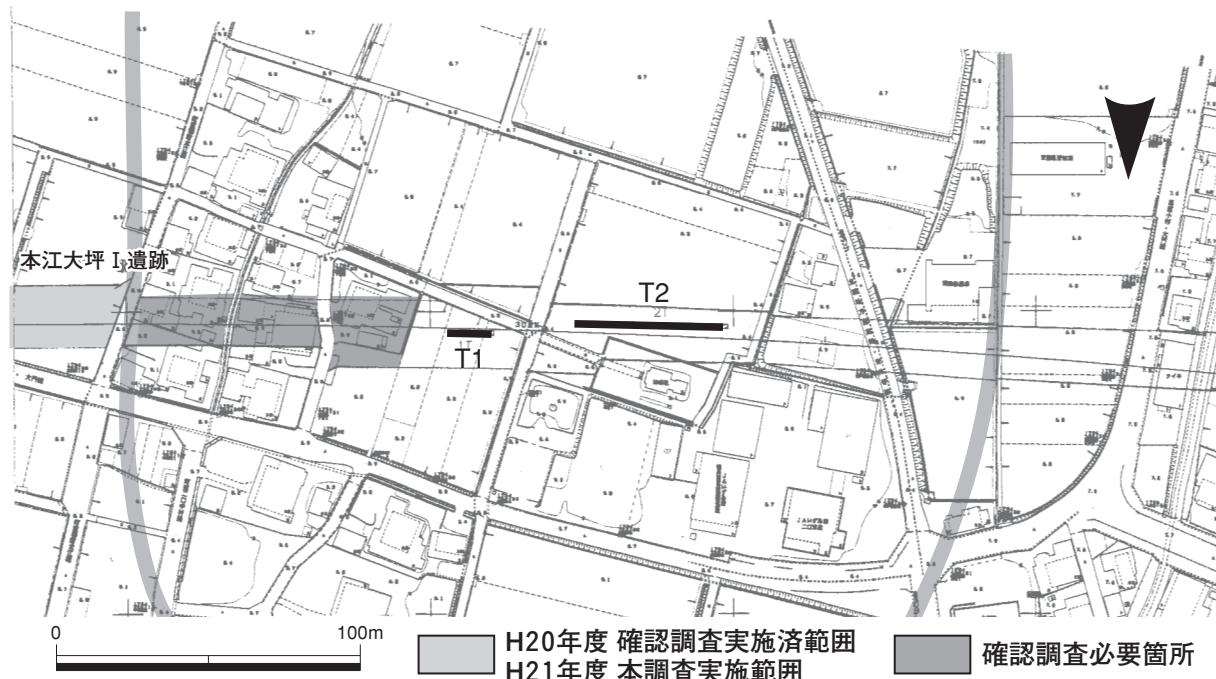
### 基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I層	表土	黒褐色粘質土 (20～30cm)
II層	地山	黄褐色砂質土・灰色砂質土 (10～20cm)
III層	地山	黄灰色粘質土 (30cm)
IV層	地山	黒褐色粘質土ピート混 (10cm)
V層	地山	灰色砂

### 調査結果

調査対象地全域（T1・T2）では、遺物包含層は確認できなかった。表土直下（II層上面）で溝・土坑を検出したが、浅いシミ状のもので、I層を埋土としている。T2の西側は西に向かって大きく落ち込む自然地形を呈する。遺物はI層から摩滅した土師器と伊万里が出土している。

以上の結果から、本調査の必要はない判断した。なお、T1の東側の宅地部分1,420m<sup>2</sup>については、本江大坪Ⅰ遺跡と隣接しており、宅地移転後に確認調査を実施する必要がある。（金三津道子）



第18図 本江畠田Ⅰ遺跡 トレンチ配置図 (1 : 2,500)

## 14. 高岡市HS-02（下黒田）遺跡

### 調査対象地

HS-02遺跡は庄川扇状地にあり、庄川左岸に位置する。西には千保川があり、千保川と庄川に挟まれた範囲に点在する微高地の一つに立地する。南側約300mには古墳・古代・中世の遺物散布地である上黒田遺跡がある。現況は水田で、標高は11.3~11.4mを測る。T 1 ~ 3 を設定した。

### 基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I層	表土	黒褐色砂質土 (15~30cm)
II層	遺物包含層	黒色砂質土 (10cm)
III層	地山	黄褐色シルト・灰オリーブシルト (30cm)
IV層	地山	黄灰粘質シルト

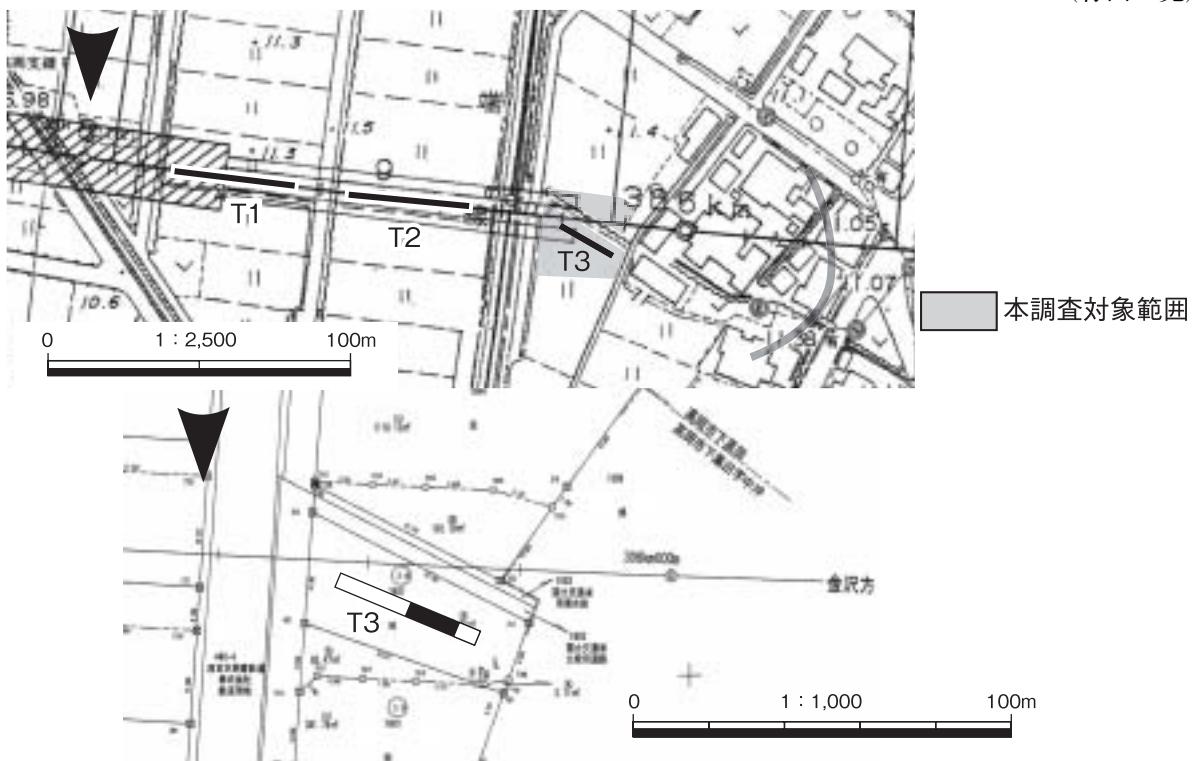
### 調査結果

調査対象地西側のT 3 で遺物包含層（II層）、及び遺構（III層上面）を検出した。検出遺構はT 3 中央に幅8m、深さ0.4mの溝で、埋土から弥生時代中期の土器が2点出土した。T 1・2 ではI層直下でIII層となり、遺構・遺物共に確認されなかった。

以上のことから、T 3 を設定したJR城端線より西側の田面については本調査が必要と判断される。T 1・2 を設定した田面は本調査の必要は無い。また、T 1 の東側に隣接する田面も包蔵地範囲内であるが、T 1 の結果から本調査は不要と判断される。なお、今回の調査対象範囲より西側の宅地部分については、家屋移転後に確認調査が必要である。

遺跡の名称は高岡市教育委員会との協議の上、所在地から“下黒田遺跡”とした。なお、本調査対象範囲については、今年度に本調査を実施した。その結果、弥生時代中期の方形周溝墓が2基確認された。

(青山 晃)



第19図 HS-02遺跡 トレンチ配置図 (1 : 2,500)・検出遺構平面図 (1 : 1,000)

	調査地名	トレントNo	全長(m)	検出遺構	出土遺物	備考
滑川市	上梅沢遺跡	T24	30	溝4・土坑1	古墳土師器・須恵器	本年度に本調査実施
		T25	25	溝4・土坑6	唐津・近代陶磁器	
		T26	5	土坑1		
		T27	5	土坑2	越中瀬戸	
富山市	水橋上砂子坂遺跡	T1	12			
		T2	3			
		T3	10			
		T4	13		近代陶磁器	
		T5	15			
		T6	14	自然流路・柱根		
	小竹貝塚	T1	8	貝層		
		T2	10	貝層		
		T3	10	貝層		
		T4	10	貝層		
		T5	10	貝層		
		T6	7	自然流路		
		T7	5			
		T8	5		縄文土器	
射水市	HS-04東遺跡	T1	20			
		T2	30			
	HS-04遺跡	T1	20			
		T2	20	溝		
		T3	30	溝・土坑		
		T4	40	溝		
		T5	48	溝・土坑		
		T7	40			
		T8	30	溝・土坑		
	愛宕遺跡	T1	30	溝5・土坑3	土師器・砥石・緑色凝灰岩	
		T2	5	溝1		
		T3	40	溝5・土坑9	珠洲	
		T4	20			
	今開発東遺跡	T1	10	溝2	須恵器・伊万里	
		T2	10	溝1		
		T3	10	溝2	土師器・珠洲	
		T4	10			
		T5	10		珠洲	
		T6	10			
		T7	10		珠洲	
		T8	10			
		T9	10			
		T10	10			
		T11	10		土師器	
		T12	10			
		T13	10	溝1		
高岡市	今開発遺跡	T1	10	溝2・土坑1	縄文土器・珠洲	
		T2	10	溝3	板	
		T3	10	溝1		
		T4	10	溝2	土師器・板	
		T5	10	溝1		
		T6	10	溝2	土師器・須恵器・青磁	
		T7	5	溝1	縄文土器・伊万里	
		T8	5	溝2	曲物	
	水上・本開発遺跡	T1	15	溝1・土坑1	中世土師器・珠洲・青磁・近世磁器	
		T2	5	溝1・土坑6	土師器	
		T3	10	溝1		
		T4	30	溝3・土坑3	土師器・須恵器・珠洲・越中瀬戸	
		T5	6		土師器	
	HS-03遺跡	T6	7		珠洲	
		T7	22	自然流路	越中瀬戸	
		T11	10	溝1・土坑4	土師器・中世土師器・珠洲	
		T12	30	溝4・自然流路	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・伊万里	
	赤井南遺跡	T13	17	溝2・土坑2	土製品	
		T8	15	溝2・土坑3	土師器・須恵器・珠洲・近世磁器	
		T9	30	溝6・土坑5	土師器・須恵器・近世陶器	
	安吉遺跡	T10	13	自然流路	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・伊万里・近世陶器	
		T14	15	溝2		
	本江畑田I遺跡	T1	5	溝1		
		T2	50	土坑2	土師器・伊万里	
		T1	40			
	HS-02遺跡	T2	40			
		T3	20	溝	弥生土器	
						本年度に本調査実施

第2表 平成21年度包蔵地確認調査トレント一覧

## IVまとめ

平成21年度に行った埋蔵文化財包蔵地確認調査の結果は、以下の通りである。

包蔵地名	対象面積 (m <sup>2</sup> )	調査面積 (m <sup>2</sup> )	遺跡の 有 無	本調査対象 面積(m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物	時期
上梅沢遺跡	1,710	97	有	660	溝・土坑	土師器・須恵器・越中瀬戸・唐津・近代陶磁器	古墳～古代
水橋上砂子坂遺跡	2,850	119	無	0	自然流路	近代陶磁器	
小竹貝塚	2,359	106	有	1,040	貝層・自然流路	縄文土器	縄文
HS-04東遺跡	3,000	75	無	0			
HS-04遺跡	9,422	342	有	830	溝・土坑		中世
愛宕遺跡	3,700	142	有	4,770	溝・土坑	土師器・珠洲・砥石・緑色凝灰岩	古墳・中世
今開発東遺跡	6,300	195	有	2,010	溝	土師器・須恵器・珠洲・伊万里	中世
今開発遺跡	3,600	105	有	5,870	溝・土坑	縄文土器・土師器・須恵器・青磁珠洲・伊万里・板材・曲物	中世
水上・本開発遺跡	3,780	117	有	3,260	溝・土坑	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・青磁・越中瀬戸・近世磁器	古代～中世
HS-03遺跡	3,600	164	有	1,980	溝・土坑・自然流路	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越中瀬戸・伊万里・土製品	古代～中世
赤井南遺跡	2,300	116	有	2,090	溝・土坑・自然流路	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・伊万里・近世陶磁器	古代～中世
安吉遺跡	1,380	30	無	0	溝		
本江畑田I遺跡	5,400	64	無	0	溝・土坑	土師器・伊万里	
HS-02遺跡	2,600	180	有	620	溝	弥生土器	弥生

## 参考文献

- 射水市教育委員会 2008『射水市内遺跡発掘調査一覧 平成17・18年度』
- 射水市教育委員会 2009『射水市内遺跡発掘調査一覧 平成19年度』
- 岡崎卯一 1966「呉羽町小竹貝塚の調査」『富山県放生津潟周辺の地学的研究Ⅲ集』富山県
- 大島町教育委員会 2000『水上・本開発遺跡 近世北陸道発掘調査報告』
- 国土庁土地局国土調査課 1973『土地分類図16 (富山県)』
- 小杉町教育委員会 1991『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1990年度』
- 小杉町教育委員会 1994『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1993年度』
- 小杉町教育委員会 1997『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1996年度』
- 小杉町教育委員会 1998『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1997年度』
- 小杉町教育委員会 1999 a『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1998年度』
- 小杉町教育委員会 1999 b『H S - 0 4 遺跡発掘調査報告』
- 小杉町教育委員会 2000『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1999年度』
- 小杉町教育委員会 2001『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 2000年度』
- 大門町教育委員会 1997 a『大門東部地区埋蔵文化財発掘調査報告』
- 大門町教育委員会 1997 b『本江畠 I 遺跡発掘調査報告』
- 大門町教育委員会 1999『安吉遺跡発掘調査報告』
- 大門町教育委員会 2005 a『安吉遺跡発掘調査報告 (3)』
- 大門町教育委員会 2005 b『本江畠 I 遺跡発掘調査報告 (2) 土地区画整理事業に伴う発掘調査報告』
- 高瀬 保 1958「呉羽町小竹の貝塚について」『越中史壇 14』越中史壇会
- 富山県教育委員会 1972「富山市小竹貝塚遺跡」『富山県埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』
- 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2006『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地確認調査報告 (6)』
- 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2007『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地確認調査報告 (7)』
- 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2008『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地確認調査報告 (8)』
- 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2009 a『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地確認調査報告 (9)』
- 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2009 b『平成20年度 埋蔵文化財年報』
- 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2009 c『小竹貝塚 現地説明会資料』
- 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2009 d『上梅沢遺跡 現地説明会資料』
- 富山県埋蔵文化財センター 1993『富山県埋蔵文化財センターワン報 平成4年度』
- 富山県埋蔵文化財センター 1995『富山県埋蔵文化財センターワン報 平成6年度』
- 富山県埋蔵文化財センター 1996『富山県埋蔵文化財センターワン報 平成7年度』
- 富山県埋蔵文化財センター 1997『富山県埋蔵文化財センターワン報 平成8年度』
- 富山県埋蔵文化財センター 2001『富山県埋蔵文化財センターワン報 平成11年度』
- 富山県埋蔵文化財センター 2002『富山県埋蔵文化財センターワン報 平成12年度』
- 富山県埋蔵文化財センター 2003『富山県埋蔵文化財センターワン報 平成14年度』
- 富山県埋蔵文化財センター 2004『富山県埋蔵文化財センターワン報 平成15年度』
- 富山県埋蔵文化財センター 2005『富山県埋蔵文化財センターワン報 平成16年度』
- 富山県埋蔵文化財センター 2006『富山県埋蔵文化財センターワン報 平成17年度』
- 富山県埋蔵文化財センター 2007『富山県埋蔵文化財センターワン報 平成18年度』
- 富山市教育委員会 1974『富山市小竹貝塚範囲確認調査報告』
- 富山市教育委員会埋蔵文化財センター 2002『所報 富山市の遺跡物語 No.3』
- 富山市教育委員会埋蔵文化財センター 2008 a『所報 富山市の遺跡物語 No.9』
- 富山市教育委員会埋蔵文化財センター 2008 b『小竹貝塚 現地説明会資料』
- 富山市教育委員会埋蔵文化財センター 2009『富山市内遺跡発掘調査概要IV』
- 滑川市教育委員会 1999『平成10年度滑川市埋蔵文化財発掘調査概報』
- 北陸農政局射水平野農業水利事務所 1977『射水平野』
- 山内賢一・林寺巖州・小林高範・古川知明 1993『富山市考古資料館紀要 第13号』富山市考古資料館



(1) T24遺構検出状況（南東から）



(2) T24遺構精査状況（南東から）



(3) T24完掘状況（南西から）



(4) T25遺構検出状況（南東から）



(5) T26遺構検出状況（南東から）



(6) T26完掘状況（南西から）



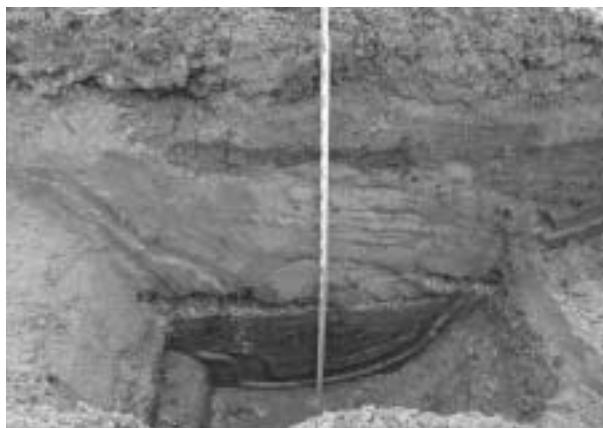
(7) T27機械掘削状況（南西から）



(8) T27遺構精査状況（南西から）

(1)～(8)：上梅沢遺跡

写真 2



(9) T 1 土層断面 (北西から)



(10) T 3 完掘状況 (南西から)



(11) T 5 機械掘削状況 (北東から)



(12) T 6 柱根検出状況 (南西から)



(13) T 1 土層断面 (北から)



(14) T 1 完掘状況 (東から)



(15) T 2 土層断面 (北から)



(16) T 2 貝層検出状況 (北から)

(9)～(12)：水橋上砂子坂遺跡 (13)～(16)：小竹貝塚



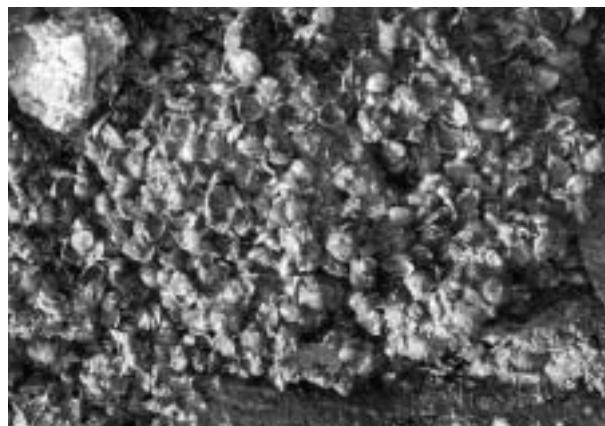
(17) T 3 土層断面 (南から)



(18) T 3 完掘状況 (西から)



(19) T 4 土層断面 (南から)



(20) T 4 貝層検出状況 (南から)



(21) T 5 土層断面 (南から)



(22) T 5 貝層検出状況 (南から)



(23) T 6 土層断面 (東から)



(24) T 6 完掘状況 (北から)

(17)～(24)：小竹貝塚

写真 4



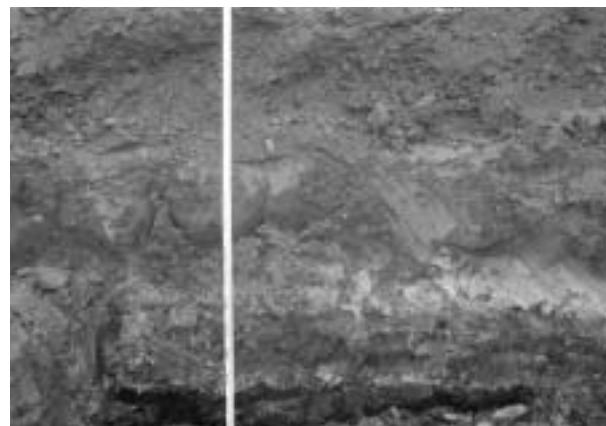
(25) T 7 機械掘削状況（西から）



(26) T 7 土層断面（西から）



(27) T 8 遺構精査状況（北東から）



(28) T 8 土層断面（北東から）



(29) T 1 機械掘削・遺構精査状況（南西から）



(30) T 1 土層断面（南から）



(31) T 2 土層断面（南から）



(32) T 2 完掘状況（東から）

(25)～(28)：小竹貝塚 (29)～(32)：HS-04東遺跡



(33) T 1 完掘状況（西から）



(34) T 2 土層断面（南から）



(35) T 3 遺構検出状況（南から）



(36) T 8 遺構検出状況（南から）



(37) T 1 完掘状況（東から）



(38) T 1 遺構検出状況（南東から）



(39) T 3 遺構検出状況（南西から）



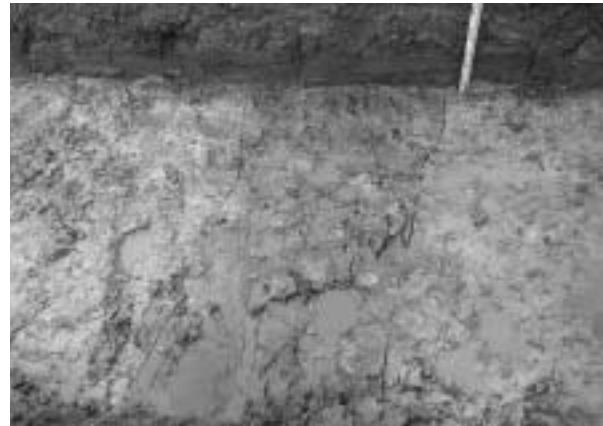
(40) T 4 土層断面（西から）

(33)～(36)：HS-04遺跡 (37)～(40)：愛宕遺跡

写真 6



(41) T 1 遺構検出状況（西から）



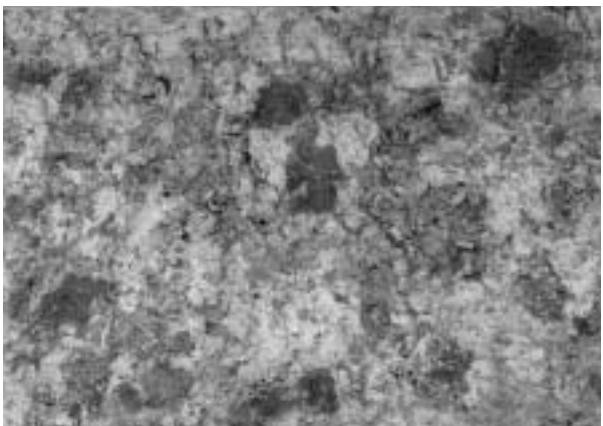
(42) T 3 遺構検出状況（西から）



(43) T 5 遺構検出状況（南から）



(44) T 13 遺構検出状況（西から）



(45) T 2 遺構検出状況（西から）



(46) T 4 土層断面（西から）



(47) T 7 土層断面（南から）



(48) T 8 機械掘削状況（西から）

(41)～(44)：今開発東遺跡 (45)～(48)：今開発遺跡



(49) T 1 完掘状況（東から）



(50) T 1 中央土層断面（南から）



(51) T 2～T 4 現況（東から）



(52) T 2 中央土層断面（南から）



(53) T 4 中央土層断面（南から）



(54) T 4 中央土層断面（南から）



(55) T 4 遺物出土状況（北東から）



(56) T 4 完掘状況（北東から）

(49)～(56)：水上・本開発遺跡

写真 8



(57) T 6 完掘状況（北から）



(58) T 7 完掘状況（北から）



(59) T 7 北端土層断面（東から）



(60) T 11西端土層断面（南から）



(61) T 11中央土層断面（南から）



(62) T 12中央土層断面（東から）



(63) T 12完掘状況（東から）



(64) T 12・T 13現況（東から）

(57)～(64)：HS-03遺跡



(65) T 8 西端土層断面（南から）



(66) T 8 完掘状況（東から）



(67) T 9 現況（東から）



(68) T 9 遺構検出状況（南から）



(69) T 9 中央土層断面（南から）



(70) T 9 中央土層断面（南から）



(71) T 10 東端土層断面（南から）



(72) T 10 完掘状況（東から）

(65)～(72)：赤井南遺跡

## 写真10



(73) T14中央土層断面（南から）



(74) T14東端土層断面（南から）



(75) T14完掘状況（東から）



(76) T1 遺構検出状況（南から）



(77) T1 西端土層断面（北から）



(78) T1 完掘状況（東から）



(79) T2 現況（東から）



(80) T2 中央土層断面（南から）

(73)～(75)：安吉遺跡

(76)～(80)：本江畠田I遺跡



(81) T 1 現況（南西から）



(82) T 1 完掘状況（西から）



(83) T 2 現況（南東から）



(84) T 2 完掘状況（東から）



(85) T 3 現況（東から）



(86) T 3 中央土層断面（南から）



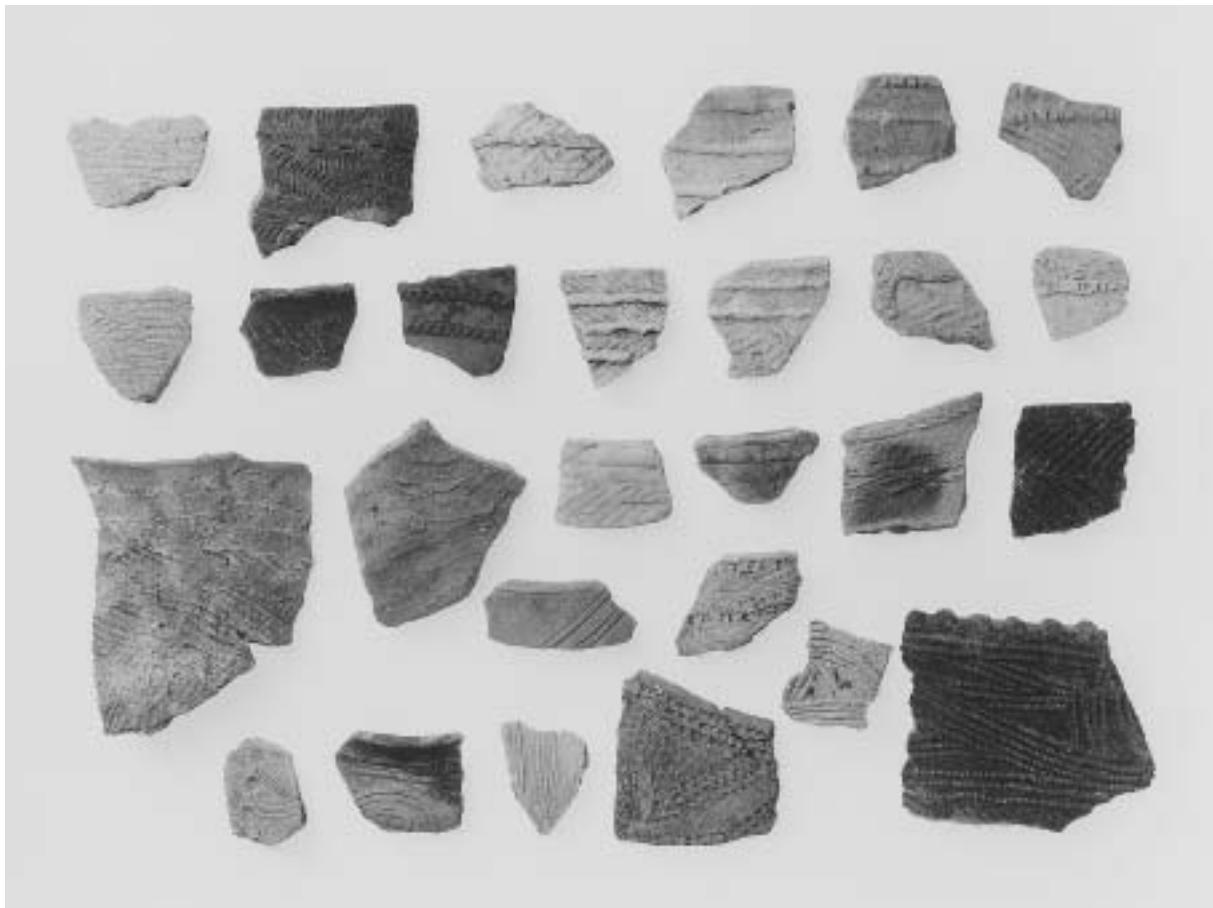
(87) T 3 遺構検出状況（南東から）



(88) T 3 完掘状況（東から）

(81)～(88)：HS-02遺跡

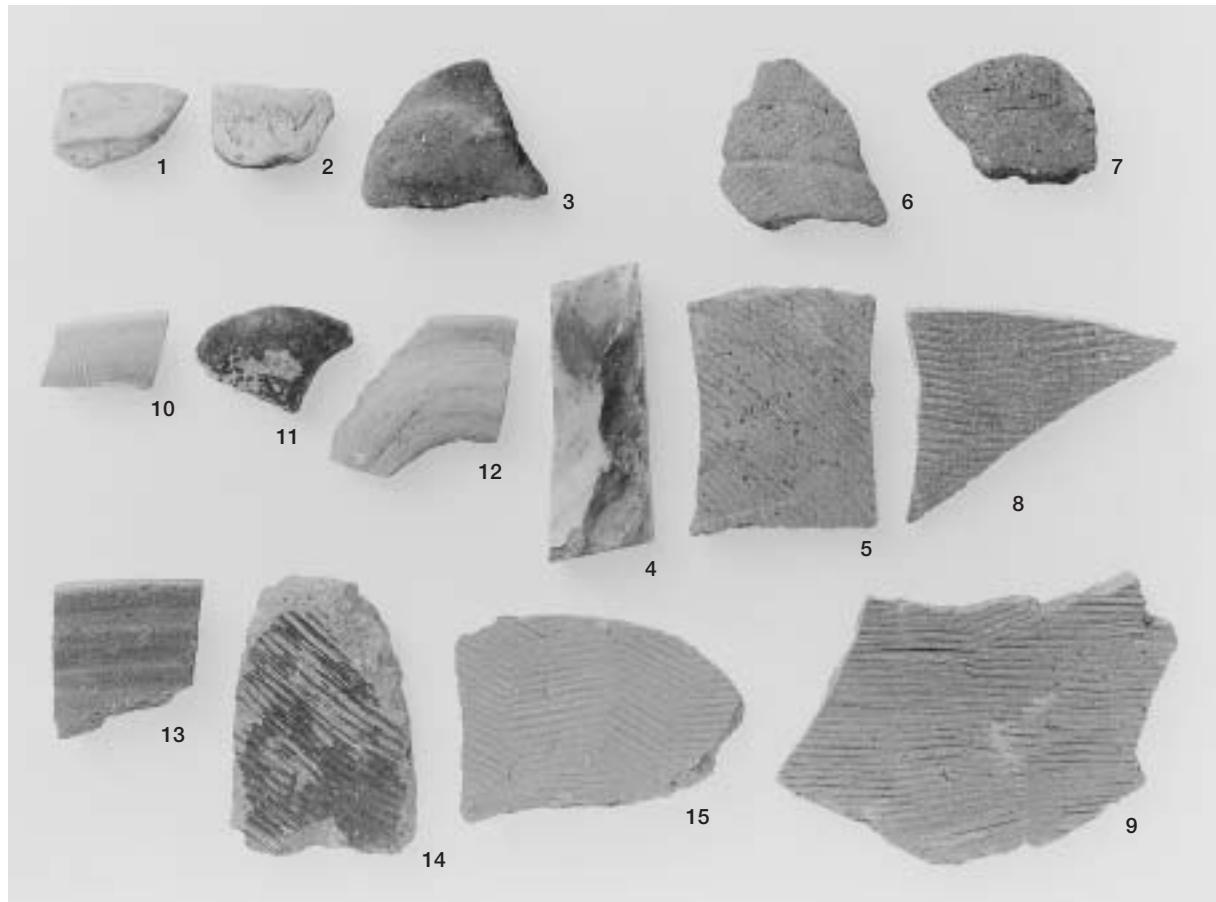
写真12



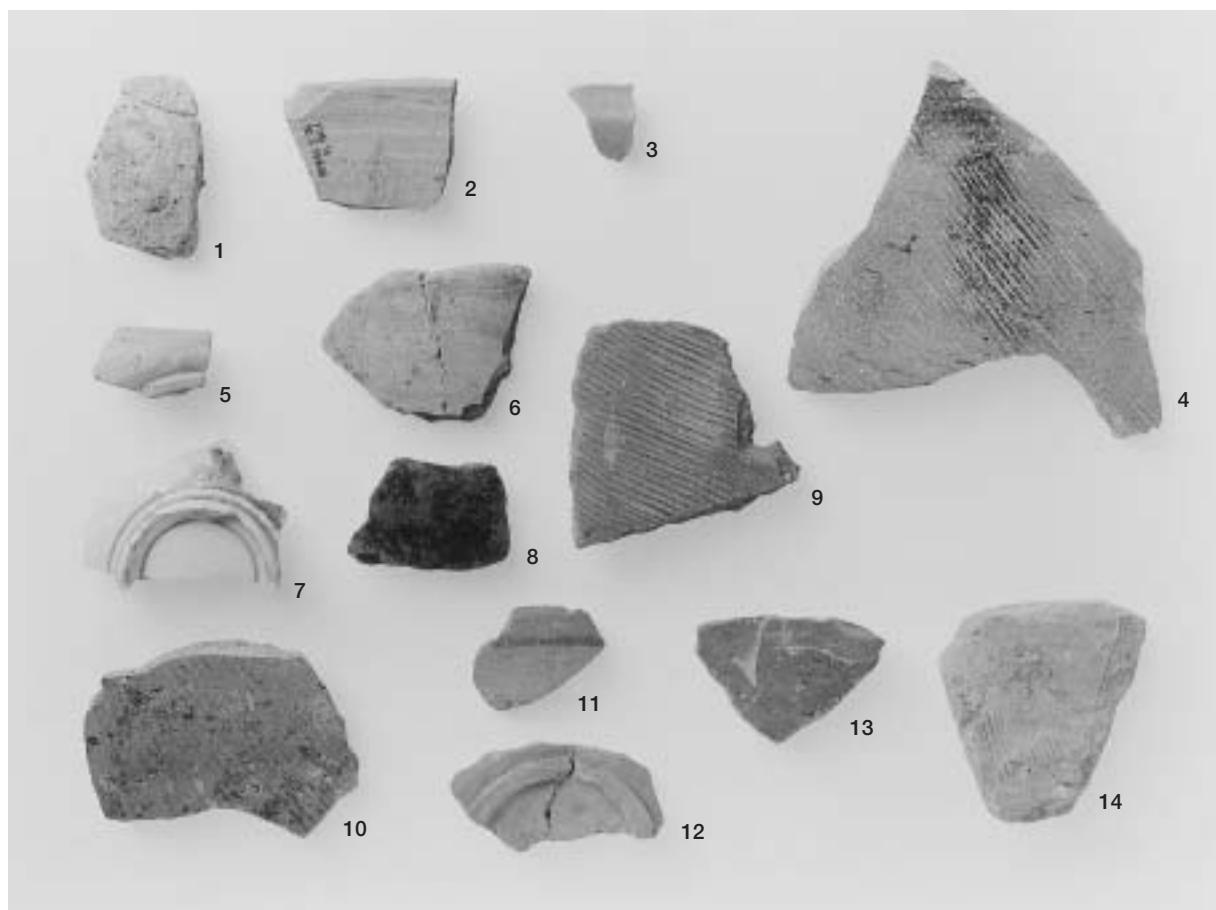
富山市内出土遺物（小竹貝塚）



富山市内出土遺物（小竹貝塚）



射水市内出土遺物 (1~4: 愛宕遺跡 5: 今開発東遺跡 6~9: 今開発遺跡 10~15: HS-04遺跡)



射水市内出土遺物 (1~4: 水上・本開発遺跡 5~9: HS-03遺跡 10~14: 赤井南遺跡)

# 報告書抄録

ふりがな	ほくりくしんかんせんかんけいまいぞうぶんかざいほうぞうちょうさほうこく							
書名	北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告（10）							
副書名	上梅沢遺跡 水橋上砂子坂遺跡 小竹貝塚 HS-04東遺跡 HS-04(愛宕)遺跡 愛宕遺跡 今開発東遺跡 今開発遺跡 水上・本開発(水上)遺跡 HS-03(赤井南)遺跡 赤井南遺跡 安吉遺跡 本江畑田I遺跡 HS-02(下黒田)遺跡							
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ番号	第47集							
編著者名	金三津道子 青山 晃 町田 賢一 松永篤知							
編集機関	財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所							
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL076-442-4229							
発行年月日	西暦2010年3月31日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 。〃	東経 。〃	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	
かみうめざわいせき 上梅沢遺跡	なめりかわしきみうめざわ 滑川市上梅沢	206	051	36° 44' 41" 59"	137° 20' 59"	20090415	97	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
みずはしまみすなごさかいせき 水橋上砂子坂遺跡	とやましまずはしまみすなごさか 富山市水橋上砂子坂	201	256	36° 43' 45"	137° 19' 53"	20091013・20091222 20100119・20100203	119	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
おだけかいづか 小竹貝塚	とやましきれはまちきた 富山市呉羽町北	201	105	36° 43' 16"	137° 10' 5"	20090519～20・ 20091003・20091024	106	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
ひがしいせき HS-04東遺跡	いみずこそぎしらいし 射水市小杉白石	381	009	36° 43' 31"	137° 8' 16"	20090721	75	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
いせき HS-04遺跡	いみずしひばり 射水市戸破	381	004	36° 43' 40"	137° 6' 23"	20091124～26・ 20091203	342	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
あたご いせき 愛宕遺跡	いみずしひばり 射水市戸破	381	002	36° 43' 42"	137° 6' 1"	20090722・20091124	142	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
いまかいほつがいせき 今開発東遺跡	いみずしいまかいほつ 射水市今開発	384	030	36° 43' 42"	137° 5' 38"	20090723～27	195	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
いまかいほついせき 今開発遺跡	いみずしいまかいほつ 射水市今開発	384	021	36° 43' 40"	137° 5' 21"	20090722～23	105	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
みずかみほんかいほついせき 水上・本開発遺跡	いみずししんかいほつ 射水市新開発	381	026	36° 382 067	137° 4' 27"	20090608～11	117	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
いせき HS-03遺跡	いみずししんかいほつ 射水市新開発	384	020	36° 43' 23"	137° 4' 18"	20090608～11	164	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
あかいみなみいせき 赤井南遺跡	いみずしあかい 射水市赤井	384	019	36° 43' 25"	137° 4' 21"	20090608～11	116	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
やすよいいせき 安吉遺跡	いみずしやすよし 射水市安吉	382	050	36° 43' 21"	137° 4' 12"	20090728	30	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
ほんごうはたけだ いせき 本江畑田I遺跡	いみずしなむら 射水市中村	382	057	36° 43' 14"	137° 3' 10"	20090831～0901	64	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
いせき HS-02遺跡	たかおかしもくろだ 高岡市下黒田	202	146 202 248	36° 43' 40"	137° 0' 40"	20090518～19	180	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上梅沢遺跡	集落	古墳～古代	溝・土坑	土師器・須恵器		本年度本調査実施		
水橋上砂子坂遺跡				近代陶磁器		本調査を必要としない		
小竹貝塚	貝塚	縄文	貝層	縄文土器		遺構・遺物を確認		
HS-04東遺跡						本調査を必要としない		
HS-04遺跡	集落	中世	溝・土坑	土師器・須恵器・珠洲		遺構・遺物を確認、一部を 愛宕遺跡とする		
愛宕遺跡	集落	古墳・中世	溝・土坑	土師器・珠洲・砥石・緑色凝灰岩		遺構・遺物を確認		
今開発東遺跡	集落	中世	溝	土師器・須恵器・珠洲・伊万里		遺構・遺物を確認		
今開発遺跡	集落	中世	溝・土坑	縄文土器・土師器・須恵器・青磁 珠洲・伊万里・板材・曲物		遺構・遺物を確認		
水上・本開発遺跡	集落	古代～中世	溝・土坑	土師器・須恵器・中世土師器 珠洲・青磁・越中瀬戸		遺構・遺物を確認、水上遺 跡に名称変更		
HS-03遺跡	集落	古代～中世	溝・土坑	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲 青磁・越中瀬戸・伊万里		遺構・遺物を確認、一部を 赤井南遺跡とする		
赤井南遺跡	集落	古代～中世	溝・土坑	土師器・須恵器・中世土師器 珠洲・伊万里		遺構・遺物を確認		
安吉遺跡			溝			本調査を必要としない		
本江畑田I遺跡			溝・土坑	土師器・伊万里		本調査を必要としない		
HS-02遺跡	集落	弥生	溝	弥生土器		遺構・遺物を確認、下黒田遺跡 とする 本年度本調査実施		

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第47集  
**北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(10)**

上梅沢遺跡 水橋上砂子坂遺跡 小竹貝塚 HS-04東遺跡 HS-04(愛宕)遺跡  
愛宕遺跡 今開発東遺跡 今開発遺跡 水上・本開発(水上)遺跡 HS-03(赤井南)遺跡  
赤井南遺跡 安吉遺跡 本江畠田I遺跡 HS-02(下黒田)遺跡

編集・発行 財団法人富山県文化振興財団  
埋蔵文化財調査事務所  
〒930-0887 富山市五福4384番1号  
TEL 076-442-4229  
発行日 2010(平成22)年3月31日  
印 刷 中村印刷工業株式会社  
〒930-0039 富山市東町2丁目3-22  
TEL 076-424-4616